

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

WW10613 / WW81782 / WW38427

このヘルプガイドは日本国向です。

製品を使っていて困ったときやわからないことがあったときに使うマニュアルです。

このヘルプガイドは、ECM-W5、ECM-W5RおよびECM-W5Tの3機種を対象としたマニュアルです。

ECM-W5は製造時にレシーバーとマイクロホンのペアで通信できるように設定されています。

対応機器について

本機が対応しているカメラやヘッドホンについては、以下をご覧ください。

- [対応するカメラについて](#)
- [対応するヘッドホンについて](#)

「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」とカメラに表示されたら

こちらをご確認ください。

レシーバーの基本操作について

レシーバーの基本操作とメニュー画面などの遷移については、以下をご覧ください。

- [レシーバーを操作する](#)
- [画面遷移について](#)

[ECM-W5R／ECM-W5Tをお買い上げのお客様へ](#)

[対応するカメラについて](#)

[対応するヘッドホンについて](#)

[各部の名称](#)

[ランプ表示](#)

準備

[本体と付属品を確認する](#)

充電する

- [充電ケースを使って充電する](#)

- [レシーバー／マイクロホンにUSB Type-Cケーブルをつないで充電する](#)

[日付と時刻を設定する](#)

[レシーバーをカメラに取り付ける](#)

[レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続する](#)

[マイクロホンを衣服などに取り付ける](#)

[ウインドスクリーンを取り付ける](#)

[レシーバー／マイクロホンの電源を入れる／切る](#)

レシーバーの基本操作

[レシーバーを操作する](#)

[画面遷移について](#)

[マイクステータス画面](#)

[入カマイク設定画面](#)

[レシーバーステータス画面](#)

[システムステータス画面](#)

[コントロールメニュー画面](#)

[誤操作を防止する](#)

Bluetooth接続（ペアリング）

[マイクロホンとレシーバーを接続する](#)

[ヘッドホンとレシーバーを接続する](#)

[マイクロホンとスマートフォン／パソコンを接続する](#)

カメラで録音する

[2台のマイクロホンを使ってカメラで録音する](#)

[4台のマイクロホンを使ってカメラで録音する](#)

[ヘッドホンをマイクとして使用しカメラで録音する](#)

[レシーバーに外部マイクを接続してカメラで録音する](#)

[マイクロホンに外部マイクを接続してカメラで録音する](#)

[カメラ側でサンプリング周波数や量子化ビット数を設定する](#)

その他の機能

[ヘッドホンで音声をモニターする](#)

[タイムコード機能を使う](#)

[マイクロホンの内蔵メモリーに録音する](#)

設定

[チャンネル設定について](#)

レシーバーメニュー

- [TIMECODE ON/OFF](#)
- [TIMECODE SET.](#)
- [PAIRING](#)
- [POWER LINK](#)
- [MISHOE SET.](#)

マイクロホン内蔵RECメニュー

- [AUTO REC](#)
- [TX LINK](#)
- [REC AUDIO SET.](#)
- [REC LC/NR FILTER](#)
- [OVERWRITE REC](#)
- [STORAGE \(DELETE\).](#)

ヘッドホンメニュー

- [MONITOR SET.](#)
- [BINAURAL](#)
- [MIRROR](#)

システムメニュー

- [MODE SELECT](#)
- [BRIGHTNESS](#)
- [DATE/TIME](#)
- [INITIALIZE](#)
- [TX IDENTIFY](#)
- [TX LAMP](#)
- [VERSION](#)

本機について

[指向特性と周波数特性について](#)

[Bluetooth®無線通信技術について](#)

[使用上のご注意](#)

[主な仕様](#)

[商標について](#)

[「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」とカメラに表示されたら](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

ECM-W5R／ECM-W5Tをお買い上げのお客様へ

このヘルプガイドでは、主にECM-W5を使用する場合の操作方法について説明しています。
ECM-W5R、ECM-W5Tをお買い上げのお客様は、お使いの用途にあわせて以下もご覧ください。

ECM-W5R（ワイヤレスレシーバー）をお買い上げのお客様

- [外部マイクを使って録音する方法](#)
- [ヘッドホンを使って録音する方法](#)

ECM-W5T（ワイヤレストランスミッター）をお買い上げのお客様

- [すでにECM-W5を購入していて、お手持ちのレシーバーにマイクロホンを追加で接続する方法](#)
- [お使いのスマートフォンやパソコンにマイクロホンをBluetooth接続する方法](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

対応するカメラについて

本機は、ソニーのレンズ交換式デジタルカメラなどのマルチインターフェースシューを搭載したカメラに対応しています。

マルチインターフェースシューが搭載されたカメラであっても、使用できない場合や一部機能に対応していない場合があります。

本機は、出荷時にデジタルオーディオインターフェース対応のマルチインターフェースシューと接続できるように設定されています。

本機に接続可能なカメラについては、こちらからご確認ください。

- [ECM-W5をお使いの場合](#)
- [ECM-W5Rをお使いの場合](#)

関連項目

- [「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」とカメラに表示されたら](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

対応するヘッドホンについて

本機とワイヤレスヘッドホンの互換性について詳しくは、こちらからご確認ください。

<https://www.sony.net/di/TWS/>

- ソニー製Classic Audio専用ヘッドホンをお使いの場合
ヘッドホンのマイクを使用した録音機能（モノラル）を使用できます。モニタリング機能、バイノーラル録音機能は使用できません。
- ソニー製LE Audio対応ヘッドホンをお使いの場合
ヘッドホンのマイクを使用した録音機能およびモニタリング機能を使用できます。また、バイノーラル録音対応のヘッドホンをお使いの場合は、バイノーラル録音機能も使用できます。
本機とペアリングを行う前に、必ずスマートフォンアプリ“Sony | Sound Connect”を使って、LE Audio優先モードに切り替えてからお使いください。

“Sony | Sound Connect”について詳しくは、こちらからご確認ください。

<https://www.sony.jp/headphone/special/soundconnect/>

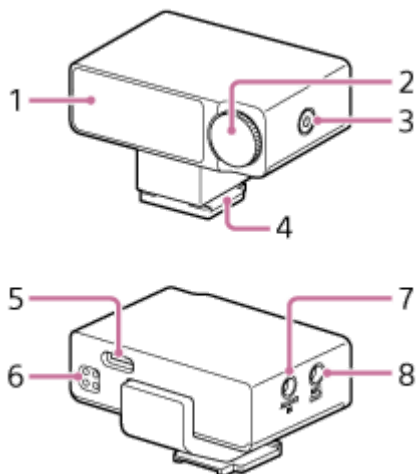
ご注意

- お使いのヘッドホンをClassic Audioモードで接続している場合、“Sony | Sound Connect”でLE Audio優先モードに切り替えたときは、一度ヘッドホンのペアリング情報を削除してから再度ペアリングしなおしてください。
再度ペアリングと接続が完了すると、ヘッドホンの名前と [LE Audio] が表示されます。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

各部の名称

レシーバー



1. モニター（タッチパネル）

2. コントロールホイール／ボタン

3. ON/OFF（電源）ボタン

4. マルチインターフェースシューアダプター

5. USB Type-C™端子

市販のUSB Type-Cケーブルで接続し、レシーバーの充電／給電を行います。

パソコンやスマートフォンなど、USBオーディオ入力対応機器に接続して録音することもできます。

6. 充電端子

充電ケースを使って、レシーバーの充電を行います。

7. オーディオ入力端子

レシーバーと外部マイク（別売）を接続し、録音することができます。詳しくは、「[レシーバーに外部マイクを接続してカメラで録音する](#)」をご覧ください。

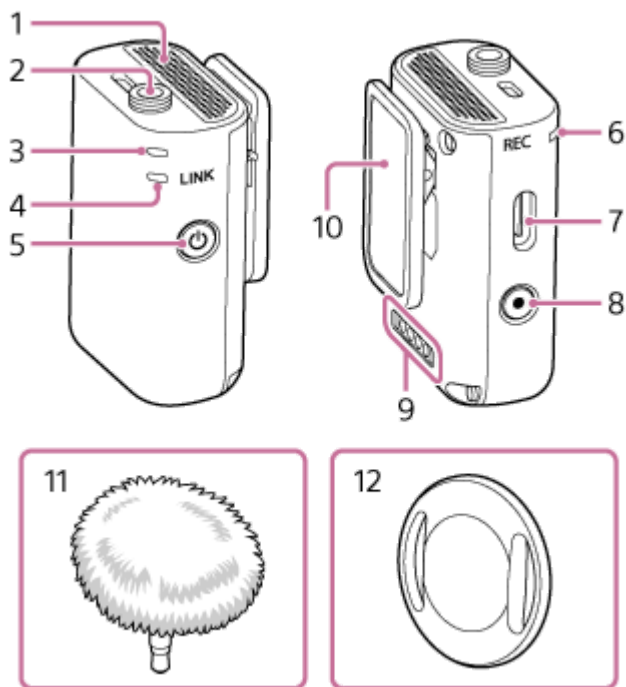
また、カメラのヘッドホン出力端子と市販のØ3.5 mmプラグ付きTRSオーディオケーブルで接続することで、レシーバーとBluetooth接続したヘッドホンでカメラの音声をモニターすることができます。

カメラの音声をモニターするときの設定について詳しくは、「[MONITOR SET.](#)」をご覧ください。

8. マイク出力端子

レシーバーとカメラのマイク入力端子を、市販のØ3.5 mmプラグ付きTRSオーディオケーブルで接続することにより、録音することができます。

マイクロホン

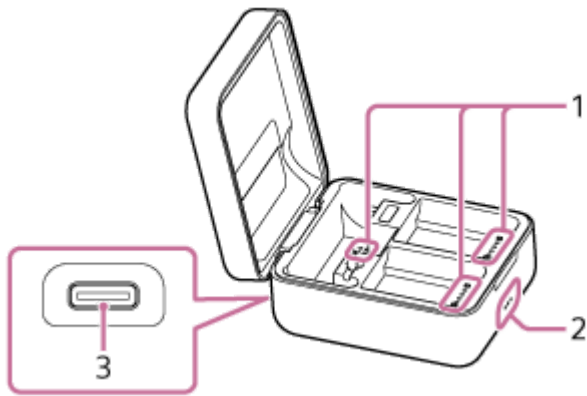


1. 内蔵マイク
2. 外部マイク入力端子（モノラル）
外部マイク（別売）を接続すると、自動的に外部マイクからの收音に切り替わります。
3. Powerランプ
マイクロホンの電源、充電の状態を確認できます。
オレンジ色でゆっくり点滅し続けている場合は、充電が必要です。
4. LINKランプ
マイクロホンの通信状態を確認できます。
5. ON/OFF（電源）ボタン
6. RECランプ
マイクロホンの内蔵メモリーに録音しているときに点灯します。また、マイクロホンが消音に設定されているときに点滅します。
7. USB Type-C端子
市販のUSB Type-Cケーブルで接続し、マイクロホンの充電／給電を行います。
また、パソコンのUSB端子と接続すると、マイクロホンの内蔵メモリーにある録音データをパソコンで確認することができます。
8. REC（録音）ボタン
9. 充電端子
充電ケースを使って、マイクロホンの充電を行います。
10. クリップ
衣服などに取り付けるときに使用します。
11. ウィンドスクリーン
マイクロホンに取り付けて使用することにより、強い風や息が直接あたるときに発生する雑音を減らします。
12. マグネット
衣服などに取り付けるときに使用します。

ご注意

- マイクロホン底面のシリアルナンバーが書かれたラベルシール付近にBluetoothアンテナが内蔵されています。この付近を覆うように握ると、無線通信の飛距離に影響を与える場合があります。

充電ケース



1. 充電端子

2. 充電状況お知らせランプ

充電ケースの充電の状態を確認できます。

また、充電ケースを充電していない状態でふたを開けると、充電ケースの内蔵バッテリーの残量を確認できます。

3. USB Type-C端子

充電ケースにレシーバー／マイクロホンを入れ、市販のUSB Type-Cケーブルをつないで充電します。

また、充電ケースにマイクロホンが入っている状態でパソコンのUSB端子と接続すると、マイクロホンの内蔵メモリーにある録音データをパソコンで確認することができます。

ご注意

- レシーバー／マイクロホンを収納するとき以外に、充電端子部分を故意に押し込んだりしないでください。故障の原因になります。

関連項目

- [充電ケースを使って充電する](#)
- [レシーバー／マイクロホンにUSB Type-Cケーブルをつないで充電する](#)
- [マイクロホンを衣服などに取り付ける](#)
- [ウインドスクリーンを取り付ける](#)
- [ランプ表示](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

ランプ表示

機器や通信の状態によって、ランプは以下のように点灯・点滅・消灯します。

● : 点灯（緑色）／● : 点灯（オレンジ色）／● : 点灯（青色）／● : 点灯（黄色）／● : 点灯（赤色）／● : 消灯

Powerランプ（マイクロホン）

- 電源が入っていて、バッテリー残量が十分にあるとき
（緑色で点灯）
- バッテリー残量が少なくなったとき
（オレンジ色でゆっくり点滅）
- 充電しているとき
（オレンジ色で点灯）
充電が完了すると消灯します。
- 充電異常（バッテリー温度異常など）
（オレンジ色ですばやく点滅）

LINKランプ（マイクロホン）

レシーバーと接続するとき

- Bluetooth接続待ち受け状態
（青色でゆっくり点滅）
- ペアリングモードに入ったとき
（青色ですばやく点滅）
- Bluetooth接続状態になり、音声が見事に録音できる
（青色で点灯）
- 通信状態が悪く音声が見切れるとき
（青色で点滅（点滅が速くなるほど、通信状態が悪い状態））*

スマートフォン／パソコンと接続するとき

- Bluetooth接続待ち受け状態
（黄色でゆっくり点滅）
- ペアリングモードに入ったとき
（黄色ですばやく点滅）
- Bluetooth接続状態になり、音声が見事に録音できる
（黄色で点灯）
- 通信状態が悪く音声が見切れるとき
（黄色で点滅（点滅が速くなるほど、通信状態が悪い状態））*

* 周囲の無線状況や、障害物が多い場合など、通信状態が悪化して音声が見絶えたり、ノイズが発生することがあります。その場合は、マイクロホンのLINKランプが点滅します。距離が適切か、障害物がないかなど確認し、LINKランプが安定して点灯している状態でご使用ください。

RECランプ（マイクロホン）

- マイクロホンで録音中
（赤色で点灯）
- マイクロホンが消音状態のとき
（赤色でゆっくり点滅）

充電状況お知らせランプ（充電ケース）

充電ケースのバッテリーの充電状況や残量、状態を確認することができます。

- 充電中
 - 充電ケースの内蔵バッテリーが60%以上充電された状態
（左と中央のランプが点灯、右のランプが点滅）
 - 充電ケースの内蔵バッテリーが6%～59%充電された状態
（左のランプが点灯、中央のランプが点滅、右のランプが消灯）
 - 充電ケースの内蔵バッテリーが0%～5%充電された状態
（左のランプが点滅、中央と右のランプが消灯）
 - 充電完了
3つのランプが消灯します。
- 充電していない状態で充電ケースのふたを開けたとき
 - 充電ケースの内蔵バッテリーの残量が80%以上の状態
（3つのランプが点灯）
 - 充電ケースの内蔵バッテリーの残量が61%～79%の状態
（左と中央のランプが点灯、右のランプが消灯）
 - 充電ケースの内蔵バッテリーの残量が6%～60%の状態
（左のランプが点灯、中央と右のランプが消灯）
 - 充電ケースの内蔵バッテリーの残量が5%以下の状態
（3つのランプが点滅）
- 充電異常（バッテリー温度異常など）
3つのランプがすばやく点滅します。

関連項目

- [各部の名称](#)
- [充電ケースを使って充電する](#)
- [レシーバー／マイクロホンにUSB Type-Cケーブルをつないで充電する](#)
- [マイクロホンとレシーバーを接続する](#)
- [マイクロホンとスマートフォン／パソコンを接続する](#)
- [マイクロホンの内蔵メモリーに録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

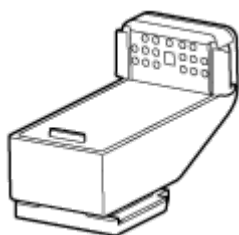
本体と付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。

() 内の数字は個数です。

ECM-W5

- マイクロホン (2)
- レシーバー (1)
マルチインターフェースシューアダプター (レシーバーに装着済み) (1)



- 充電ケース (1)
- USBアダプター (1)



- アダプター端子保護キャップ (1)



- ウィンドスクリーン (2)
- マグネット (2)
- ポーチ (1)
- 印刷物一式

ECM-W5R

- レシーバー (1)
マルチインターフェースシューアダプター (レシーバーに装着済み) (1)
マルチインターフェースシュー保護キャップ (マルチインターフェースシューアダプターに装着済み) (1)
- USBアダプター (1)
- アダプター端子保護キャップ (1)
- ポーチ (1)

- 印刷物一式

ECM-W5T

- マイクロホン（1）
- ウィンドスクリーン（1）
- マグネット（1）
- ポーチ（1）
- 印刷物一式

ご注意

- 国や地域によって付属品が異なることがあります。付属品について詳しくは、スタートガイド（付属）でご確認ください。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

充電ケースを使って充電する

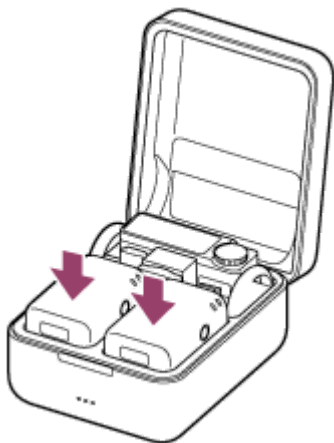
レシーバー／マイクロホン／充電ケースは、充電式リチウムイオン電池を内蔵しています。充電ケースに市販のUSB Type-Cケーブルを接続して充電します。

① レシーバー／マイクロホンを充電ケースに入れる。

レシーバー／マイクロホンの電源は自動的にオフになります。

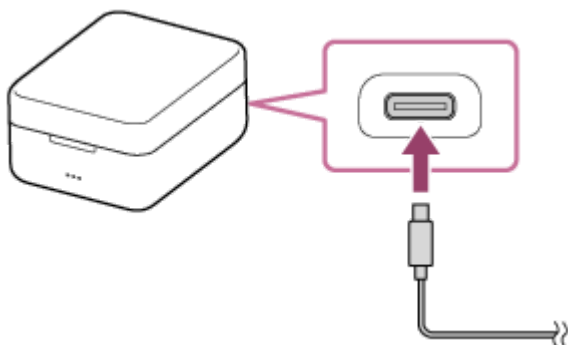
ご注意

- マイクロホンは、「カチッ」というまで押し込んでください。正しくセットされている場合は、充電が始まった際にマイクロホンのPowerランプ（オレンジ）が点灯します。
- 充電ケースのバッテリー残量がない場合、レシーバー／マイクロホンの電源は自動的にオフになりません。



セットしたら、充電ケースのふたを閉めてください。

② 充電ケースの背面にあるUSB Type-C端子にUSB Type-Cケーブルを接続する。



③ USB Type-Cケーブルを市販のUSB ACアダプターなどに接続し、充電する。

充電ケースの充電状況お知らせランプ（オレンジ）が点灯し、充電が始まります。
充電ケースの内蔵バッテリーの充電が完了すると、充電状況お知らせランプは消灯します。

ヒント

- レシーバー／マイクロホンの充電状態については、充電中に充電ケースのふたを開けて、レシーバーのモニターに表示されるシステムステータス画面またはマイクロホンのPowerランプ（オレンジ）で確認できます。充電完了すると、マイクロホンのPowerランプは消灯します。また、レシーバーのモニターには （満充電）が表示されます。詳しくは「[ランプ表示](#)」および「[システムステータス画面](#)」をご覧ください。
 - 充電中に充電ケースのふたを開けてから1分後にレシーバーの画面とマイクロホンのPowerランプは消灯します。充電状況を確認したい場合は、充電ケースのふたを閉めてから開けると、再度レシーバーの画面が表示されて確認できます。
 - 通常、レシーバー／マイクロホンは、充電ケースから取り出すと自動的に電源が入りますが、以下の場合は自動的に電源が入らないことがあります。
 - － 充電中に充電ケースのふたを開け、1分経過してレシーバーの画面とマイクロホンのPowerランプが消灯してからレシーバー／マイクロホンを取り出したとき
 - － 充電中に充電ケースのふたを開けて、レシーバーの画面が表示される前にレシーバーを取り出したとき
- 自動的に電源が入らなかった場合は、手動でレシーバー／マイクロホンの電源を入れてください。レシーバーは、一度充電ケースに入れて、レシーバーの画面が表示されてから取り出すと、自動的に電源が入ります。

充電時間について

充電ケースにレシーバー／マイクロホンを収納して充電することで、レシーバー／マイクロホン／充電ケースが同時に充電されます。

マイクロホンは、約5分間の充電で約2時間^{*1}の使用が可能です。

- レシーバー／マイクロホンの満充電に要する時間：約55分^{*2} ^{*3}
- 充電ケースの満充電に要する時間：約150分^{*2}

^{*1} 動作条件は以下のとおりです。

- － マイクロホンとレシーバーを接続しているとき
- － オーディオ入力端子に外部マイクを接続していないとき
- － 入力ゲイン設定：0
- － LC（ローカット）フィルター／NR（ノイズリダクション）設定：オフ
- － [2TX] モードに設定しているレシーバーに対して、干渉のない近距離での音声伝送中のとき

^{*2} 内蔵バッテリーの残量がない状態から、出力が5 V  3 AのUSB ACアダプターを使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

^{*3} 充電ケース内のレシーバー／マイクロホンが充電ケースより優先して充電されます。

外出先でレシーバー／マイクロホンを充電する

充電ケースを充電しておくことで、外出先などで電源がない場合でも、レシーバー／マイクロホンを充電ケースにセットして充電することができます。

レシーバー／マイクロホンの内蔵バッテリーの残量がない状態から、約1回満充電できます。ただし、充電ケースを電源につないで充電するときよりも充電時間が長くなります。

外出先でレシーバー／マイクロホンを充電するときのご注意

- 充電ケースの内蔵バッテリーの残量がない場合、充電ケースにレシーバー／マイクロホンを入れても電源は自動的にオフになりません。
- 充電ケースのふたを開閉したときや、レシーバー／マイクロホンを充電ケースから取り出したときに、充電ケースの内蔵バッテリーの残量に応じて充電状況お知らせランプ（オレンジ）が点灯または点滅します。点滅する場合は、充電ケースの内蔵バッテリーの残量が少なくなっています。充電ケースを充電してください。

充電ケースの内蔵バッテリーの情報について

充電ケースにレシーバーを入れた状態でコントロールホイール／ボタンを長押しすると、レシーバーのモニターに充電ケースの内蔵バッテリーの情報が表示されます。

- 市販のUSB ACアダプターを使って充電する場合は、定格出力電流が3 A以上のUSB ACアダプターをお使いください。

ご注意

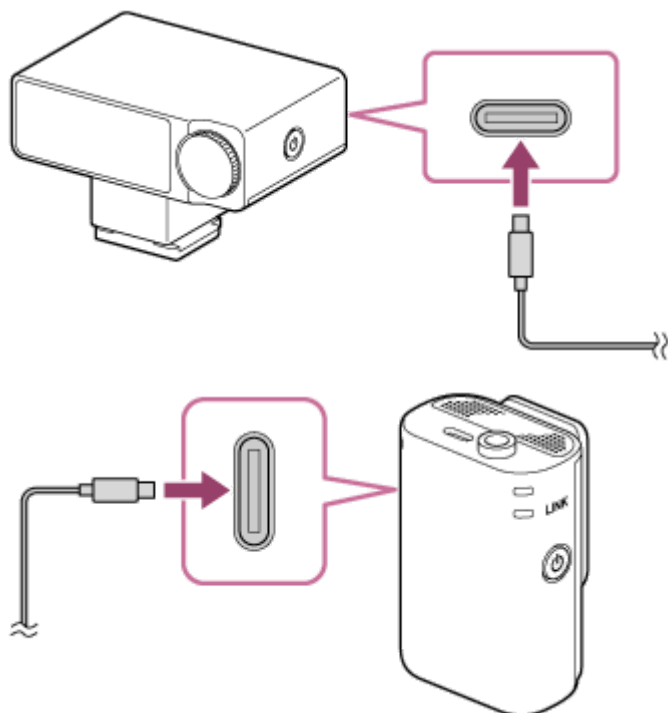
- 充電ケースをUSB ACアダプターやパソコンに接続しているときに、無理な力を加えないでください。充電ケースやUSB ACアダプター、パソコンが破損することがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンと充電ケースを接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗する場合があります。充電ケースを接続したまま長時間放置しないでください。
- 自作パソコンや改造したパソコンでの充電や接続は保証できません。同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- すべてのUSB ACアダプターやパソコンでの動作を保証するものではありません。
- パソコンがスタンバイ（スリープ）や休止状態になると充電できなくなります。この場合はパソコンの設定を変更して、充電しなおしてください。
- 長い間使わなかったときは、内蔵バッテリーの持続時間が短くなることがあります。何回か充放電を繰り返すと、十分に充電できるようになります。長期にわたって保存する場合は、過放電防止のため、半年に1回程度の充電を行ってください。
- 長い間使わなかったときは、充電時間が長くなる場合があります。
- 本機の内蔵バッテリーに問題がある場合、充電中に異常を検知すると充電ケースの充電状況お知らせランプ（オレンジ）が点滅し続けます。
周囲の温度が10℃から30℃の範囲で充電することをおすすめします。この範囲を超えると、効率のよい充電ができないことがあります。
それでも問題が解決しない場合は、ソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- 本機を長期間お使いにならなかったあとに充電を行った場合、充電状況お知らせランプ（オレンジ）がすぐに点灯しない場合があります。充電状況お知らせランプが点灯するまでしばらくお待ちください。
- 電池の持続時間が極端に短くなった場合は、内蔵バッテリーの交換時期です。ソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- 急激な温度変化や、直射日光、霧、砂、ほこりや電氣的な衝撃を避けてください。また駐車中の車内には、絶対に放置しないでください。
- 充電ケースをパソコンと接続するときはUSB Type-Cケーブルのみを使い、必ず直接つないでください。USBハブなどを経由して接続すると、正しく充電されません。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

レシーバー／マイクロホンにUSB Type-Cケーブルをつないで充電する

レシーバー／マイクロホンに市販のUSB Type-Cケーブルをつないで、充電ケースを使わずに充電することができます。

1 レシーバー／マイクロホンのUSB Type-C端子にUSB Type-Cケーブルを接続する。



2 USB Type-Cケーブルを市販のUSB ACアダプターなどに接続し、充電する。

充電中、レシーバーのモニターにはシステムステータス画面が表示され、マイクロホンのほうはPowerランプ（オレンジ）が点灯します。

充電が完了すると、マイクロホンのPowerランプは消灯します。

レシーバーのモニターには （満充電）が表示され、1分後に消灯します。

ヒント

- レシーバー／マイクロホンは、充電しながら使用することができます。

ご注意

- レシーバー／マイクロホンをUSB ACアダプターやパソコンに接続しているときに、無理な力を加えないでください。レシーバー／マイクロホンやUSB ACアダプター、パソコンが破損することがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンとレシーバー／マイクロホンを接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗する場合があります。レシーバー／マイクロホンを接続したまま長時間放置しないでください。
- 自作パソコンや改造したパソコンでの充電や接続は保証できません。同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- すべてのUSB ACアダプターやパソコンでの動作を保証するものではありません。

- パソコンがスタンバイ（スリープ）や休止状態になると充電できなくなります。この場合はパソコンの設定を変更して、充電しなおしてください。
- 長い間使わなかったときは、内蔵バッテリーの持続時間が短くなることがあります。何回か充放電を繰り返すと、十分に充電できるようになります。長期にわたって保存する場合は、過放電防止のため、半年に1回程度の充電を行ってください。
- 長い間使わなかったときは、充電時間が長くなる場合があります。
- 本機の内蔵バッテリーに問題がある場合、充電中に異常を検知するとマイクロホンのPowerランプ（オレンジ）が点滅し続けます。周囲の温度が10℃から30℃の範囲で充電することをおすすめします。この範囲を超えると、効率のよい充電ができないことがあります。それでも問題が解決しない場合は、ソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- 本機を長期間お使いにならなかったあとに充電を行った場合、マイクロホンのPowerランプ（オレンジ）がすぐに点灯しない場合があります。Powerランプ（オレンジ）が点灯するまでしばらくお待ちください。
- 電池の持続時間が極端に短くなった場合は、内蔵バッテリーの交換時期です。ソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- 急激な温度変化や、直射日光、霧、砂、ほこりや電氣的な衝撃を避けてください。また駐車中の車内には、絶対に放置しないでください。
- レシーバー／マイクロホンをパソコンと接続するときはUSB Type-Cケーブルのみを使い、必ず直接つないでください。USBハブなどを經由して接続すると、正しく充電されません。

関連項目

- [ランプ表示](#)
- [システムステータス画面](#)
- [レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

日付と時刻を設定する

レシーバーを操作して、日付と時刻を設定します。

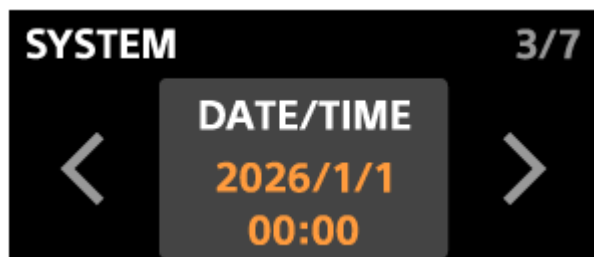
レシーバーの操作方法について詳しくは、「[レシーバーを操作する](#)」をご覧ください。

- 1 レシーバーのON/OFF（電源）ボタンを2秒間押し続けて、電源を入れる。
- 2 レシーバーのモニターにマイクステータス画面が表示されたら、画面を下から上にスワイプする。
コントロールメニュー画面が表示されます。
- 3 コントロールホイール／ボタンを右に回して〔SYSTEM〕を選択し、ボタンを押して決定する。



システムメニューが表示されます。

- 4 コントロールホイール／ボタンを右に回して〔DATE/TIME〕を選択し、ボタンを押して決定する。



- 5 画面の左側を選択し、日付を設定する。

年、月、日の順に設定し、〔DATE FORMAT〕で日付の表示方法を以下から選択します。

- YYYY/MM/DD
年／月／日の順に表示されます。
- MM/DD/YYYY
月／日／年の順に表示されます。
- DD/MM/YYYY
日／月／年の順に表示されます。

画面上の （戻る）をタッチすると、1つ前の画面に戻ります。

設定を変更しない場合は、レシーバーのON/OFF（電源）ボタンを短く押すと前の画面に戻ります。

6 画面の右側を選択し、時刻を設定する。

時間、分の順に設定します。

関連項目

- [レシーバー／マイクロホンの電源を入れる／切る](#)
- [コントロールメニュー画面](#)
- [DATE/TIME](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

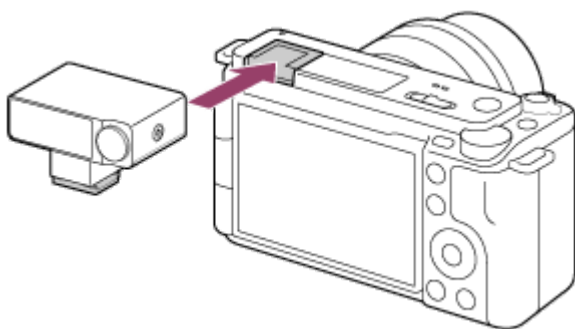
レシーバーをカメラに取り付ける

レシーバーをカメラに取り付けます。

ご注意

- 取り付ける前に、レシーバーを十分に充電してください。
- レシーバーをカメラのマルチインターフェースシューに取り付けている状態で、レシーバーと他の機器をUSB接続した場合、カメラとレシーバーのマルチインターフェースシューでの接続は解除されます。

- 1 カメラのマルチインターフェースシューとレシーバーのマルチインターフェースシューアダプターの位置を合わせて、取り付ける。



ご注意

- レシーバーをカメラのマルチインターフェースシューにしっかり奥まで差し込んでください。
- カメラの内蔵フラッシュが上がっている場合は、下げてください。

- 2 レシーバーの設定を確認する。

レシーバーのコントロールメニュー画面から[RX]を選択し、[MISHOE SET.]の設定を確認します。レシーバーと接続したカメラに合わせて[DIGITAL]または[ANALOG]に設定してください。お買い上げ時は[DIGITAL]に設定されています。詳しくは、「[MISHOE SET.](#)」をご覧ください。
正しく設定されていない場合、互換性についてのメッセージが表示されます。対応機器については、以下のサイトでご確認ください。

- ECM-W5
<https://www.sony.net/dics/ecmw5/>
- ECM-W5R
<https://www.sony.net/dics/ecmw5r/>

取り外すときは

レシーバーを、取り付けた方向と反対にスライドさせてください。

ヒント

- レシーバーのマイク出力端子とカメラのマイク入力端子を、市販のØ3.5 mmプラグ付きTRSオーディオケーブルを使って接続することもできます。その場合は、ケーブル経由でアナログ出力されます。

関連項目

- [充電ケースを使って充電する](#)
- [レシーバーを操作する](#)
- [コントロールメニュー画面](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

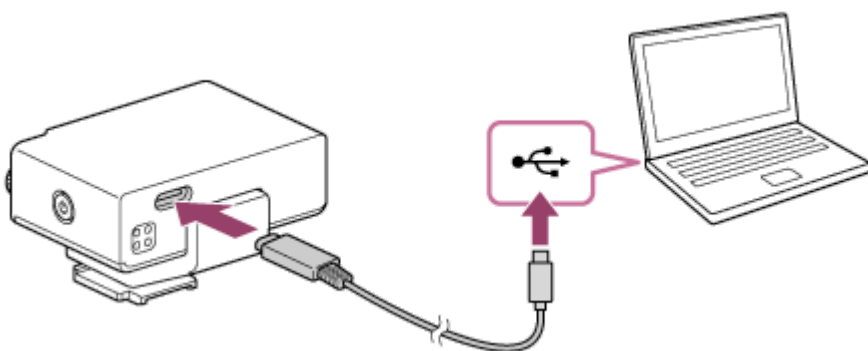
レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続する

レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続します。パソコンやスマートフォンにUSBオーディオを出力して録音することができます。

ご注意

- パソコンやスマートフォンなどの操作については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続して録音するには、お使いの機器がUSB Audio Class 2.0に対応している必要があります。
- レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続する際は、接続する機器の端子を確認して、対応したケーブル、または変換アダプターなどをお使いください。
- 接続する前に、レシーバーを十分に充電してください。
- 接続する／取り外す際は、レシーバーの電源を切った状態で行ってください。
- レシーバーをカメラのマルチインターフェースシューに取り付けている状態で、レシーバーと他の機器をUSB接続した場合、カメラとレシーバーのマルチインターフェースシューでの接続は解除されます。
- USBアダプターを使ってレシーバーをスマートフォンに接続した状態で、ズボンなどのポケットに入れないでください。外から強い力がかかると、USB端子部分の変形や故障の原因になります。
- USBアダプターを使ってレシーバーをスマートフォンに接続した状態で、机上などに立てて置かないでください。転倒や落下などにより、レシーバーおよびスマートフォンが破損するおそれがあります。

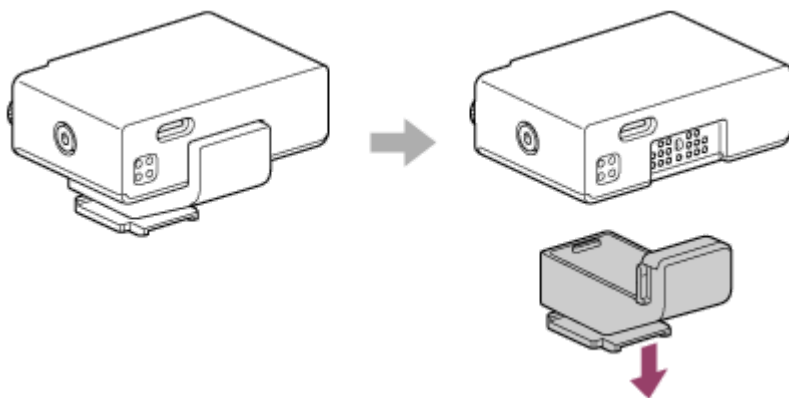
1 市販のUSB Type-Cケーブルでレシーバーとパソコンやスマートフォンなどを接続する。



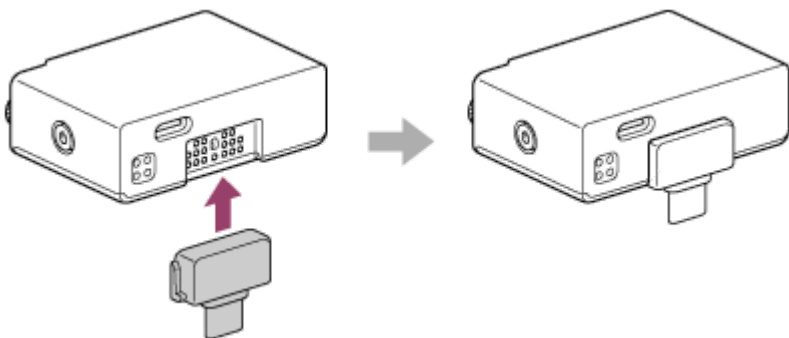
USBアダプターを使ってレシーバーを接続するには

付属のUSBアダプターをレシーバーに取り付けて、パソコンやスマートフォンなどに接続することもできます。

1. レシーバーからマルチインターフェースシューアダプターを取り外す。



2. レシーバーのアダプター端子部分にUSBアダプターを取り付ける。



関連項目

- [レシーバー／マイクロホンにUSB Type-Cケーブルをつないで充電する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

マイクロホンを衣服などに取り付ける

マイクロホンを衣服などに取り付けます。

1 クリップで胸ポケットなどお好みの場所に取り付ける。

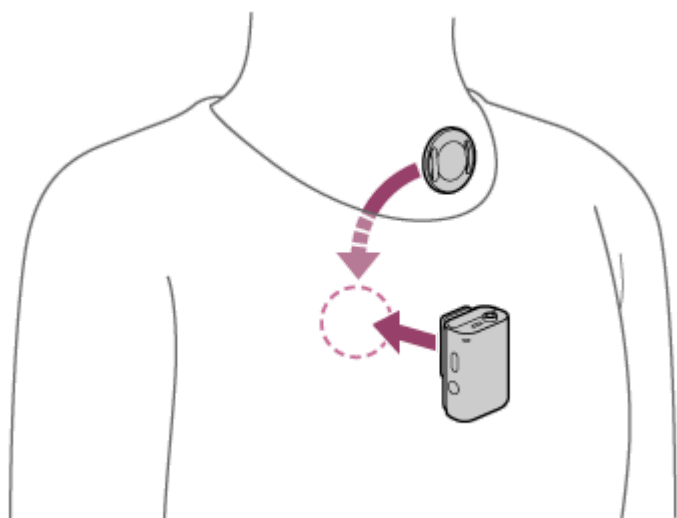
使用する状況や音の状態に合わせて最適な位置に取り付けてください。

マグネットを使ってマイクロホンを取り付けるには

付属のマグネットを使用して、マイクロホンを衣服に取り付けることもできます。

マイクロホンのクリップを衣服の外側にあてた状態で、クリップの位置に合わせて衣服の内側からマグネットを取り付けます。

マグネットは、どちらの面を使用しても取り付けることができます。



ご注意

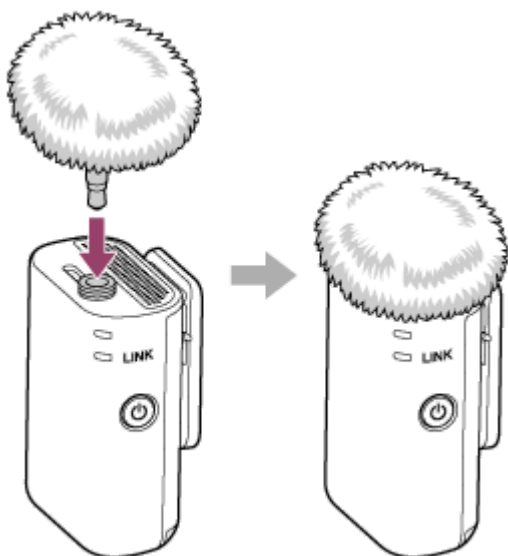
- マグネットを使用する場合は、「[使用上のご注意](#)」の「マグネットについてのご注意」を必ずご覧ください。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

ウインドスクリーンを取り付ける

ウインドスクリーンをマイクロホンに取り付けて使用することにより、強い風や息が直接あたるときに発生する雑音を減らします。

- 1 マイクロホンの外部マイク入力端子に、ウインドスクリーンの突起部を差し込む。



ご注意

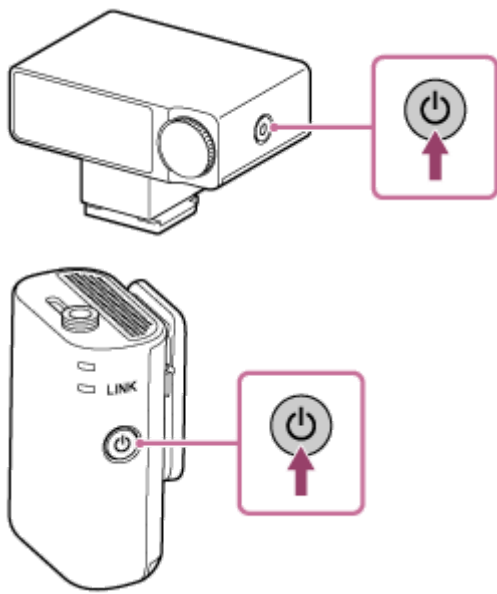
- ウインドスクリーンがぬれた場合は、マイクロホンから取り外し陰干ししてください。
- ウインドスクリーンのフレーム部分を持って、着脱してください。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

レシーバー／マイクロホンの電源を入れる／切る

1 レシーバー／マイクロホンのON/OFF（電源）ボタンを2秒間押し続ける。

レシーバー／マイクロホンの電源が入ります。



レシーバー／マイクロホンの電源を切るには

レシーバー／マイクロホンのON/OFF（電源）ボタンを1秒間押し続けてください。

ご注意

- レシーバー／マイクロホンを操作しない状態が15分続くと、レシーバー／マイクロホンのオートパワーオフ機能が働きます。使用を再開するためには、レシーバー／マイクロホンの電源を切ってから、再度電源を入れてください。オートパワーオフ機能は、以下の場合に無効となります。
 - － マイクロホンで内蔵メモリーに録音しているとき
 - － レシーバーにカメラや外部機器を接続しているとき

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

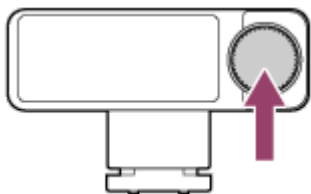
レシーバーを操作する

レシーバーの基本的な操作について説明します。

コントロールホイール／ボタンやON/OFF（電源）ボタンを使ったり、モニターをタッチしたりして、表示される画面を操作することができます。

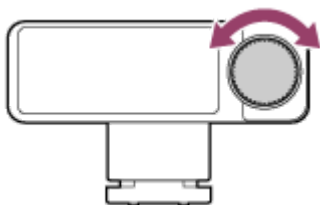
コントロールホイール／ボタン

短く押す／長押しする



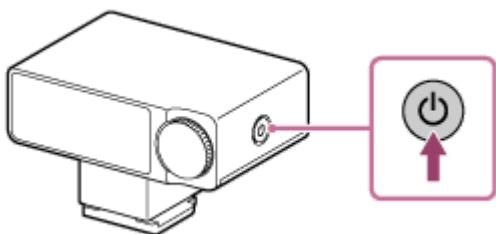
- マイクステータス画面またはレシーバーステータス画面でボタンを短く押すと、画面上にカーソル（オレンジ色の枠）が表示されます。
- 項目や設定を選択した状態でボタンを短く押すと、決定します。
- マイクステータス画面で1秒間ボタンを押し続けると、画面をロックします。

左右に回す



- 画面上のカーソルを移動させたり、画面を切り替えたりします。
- 選択項目が上下に並んで表示されているときは、右に回すと下の項目、左に回すと上の項目を選択します。

ON/OFF（電源）ボタン



- ボタンを短く押すと、前の画面に戻ります。
- 1秒間ボタンを押し続けるとレシーバーの電源が切れます。
- 5秒間ボタンを長押しすると、ペアリング操作の画面が表示されます。
詳しくは、「[PAIRING](#)」をご覧ください。

モニターのタッチ操作

レシーバーのモニターをタッチしたりスワイプしたりして操作することもできます。

- **タッチする**
項目や設定をタッチして選択したり、決定したりします。
- **右から左にスワイプ**
右側の画面に切り替えます。
- **左から右にスワイプ**
左側の画面に切り替えます。
- **上下にスワイプ**
マイクステータス画面またはレシーバースtatus画面で下から上にスワイプすると、コントロールメニュー画面が表示されます。また、コントロールメニュー画面では、上から下にスワイプすると1つ上の階層に戻ることができます。
選択項目が上下に並んで表示されているときは、上下にスワイプして項目をスクロールします。

関連項目

- [レシーバー／マイクロホンの電源を入れる／切る](#)
- [マイクステータス画面](#)
- [レシーバースtatus画面](#)
- [コントロールメニュー画面](#)
- [誤操作を防止する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

画面遷移について

レシーバーの画面がどのように遷移するかを示します。遷移図に表示されているアイコンは、以下の操作を示しています。

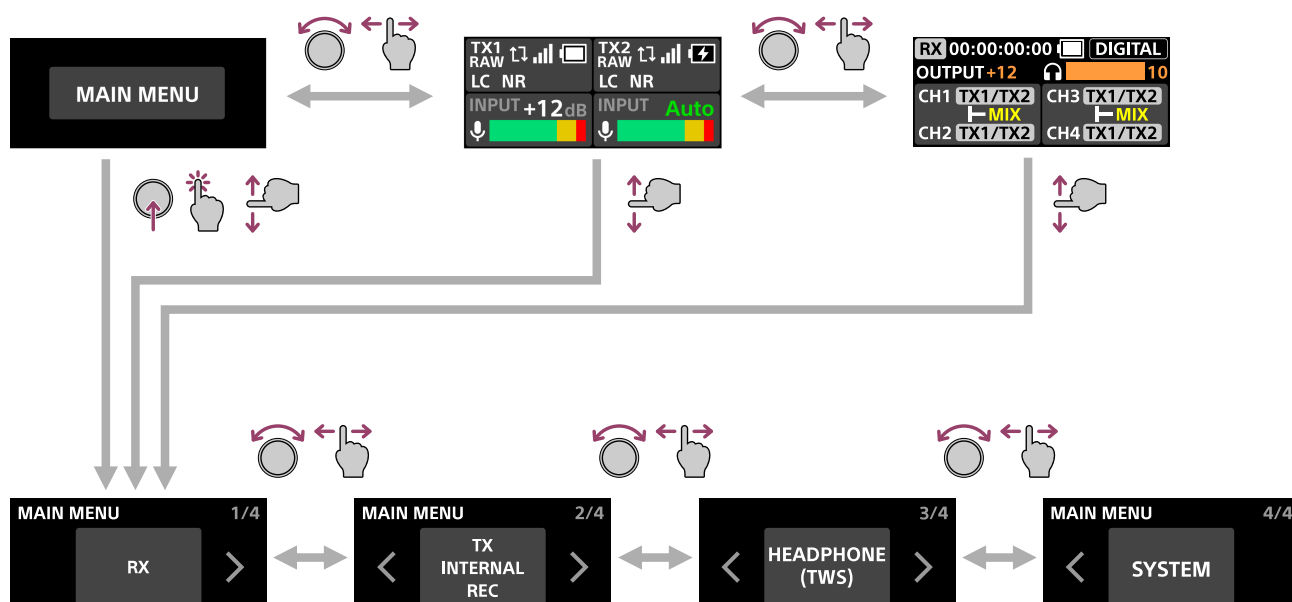
🌀（回す）／👉（スワイプ）：コントロールホイール／ボタンを回す。または、レシーバーの画面を左右にスワイプする。

👆（押す）／👉（タッチ）：コントロールホイール／ボタンを短く押す。または、レシーバーの画面をタッチする。

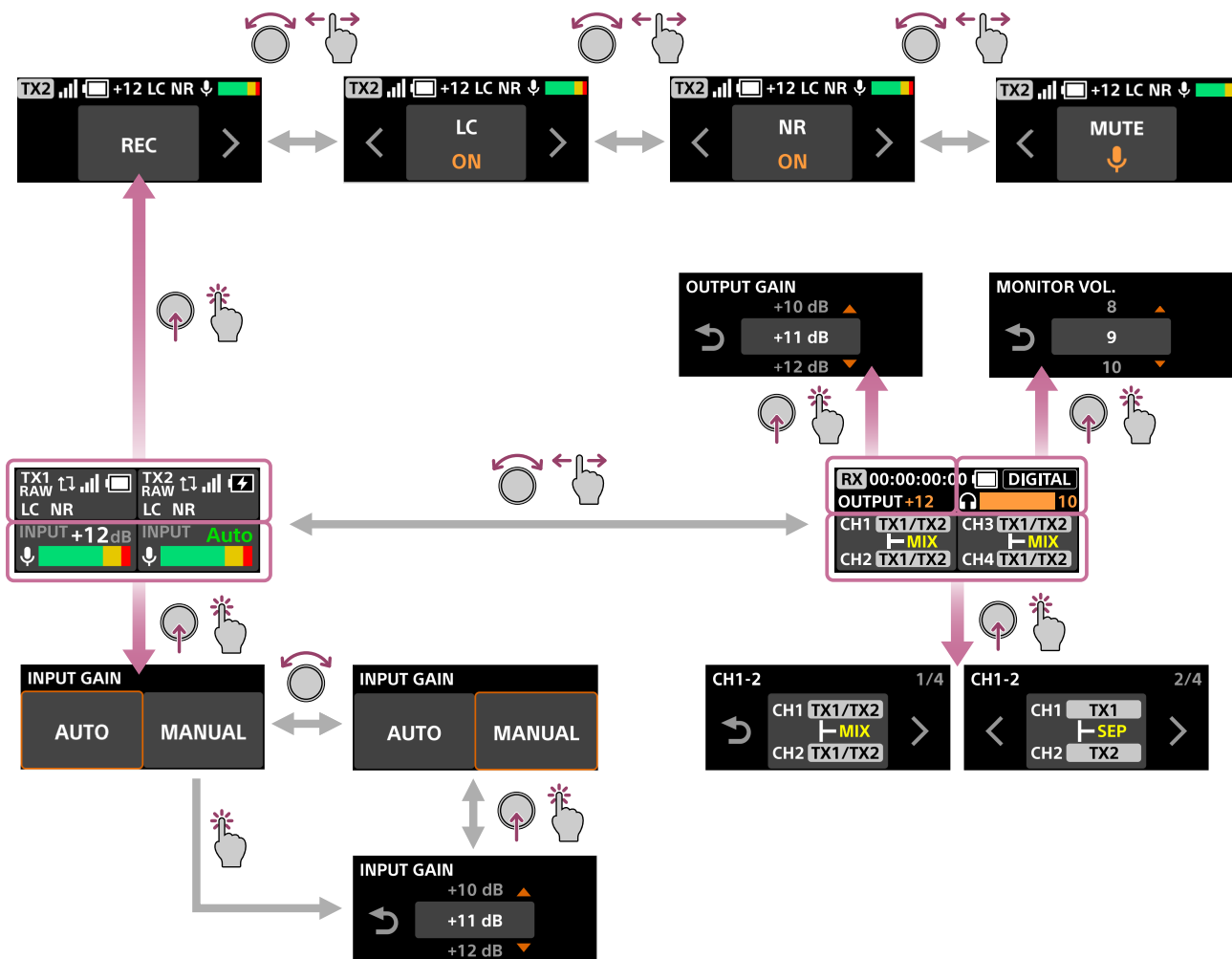
👆（上下スワイプ）：レシーバーの画面を上下にスワイプする。

レシーバーの操作方法や各画面について詳しくは、「レシーバーの基本操作」の各トピックをご覧ください。

コントロールメニューへの遷移



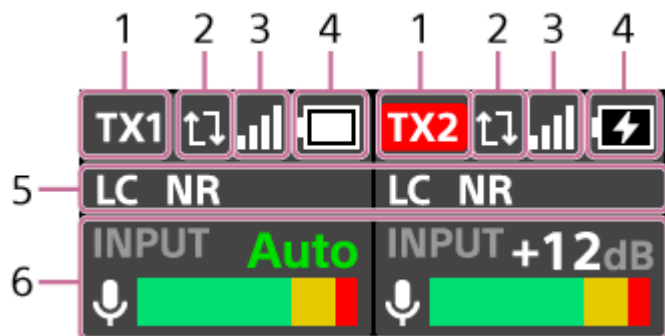
その他の画面遷移



ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

マイクステータス画面

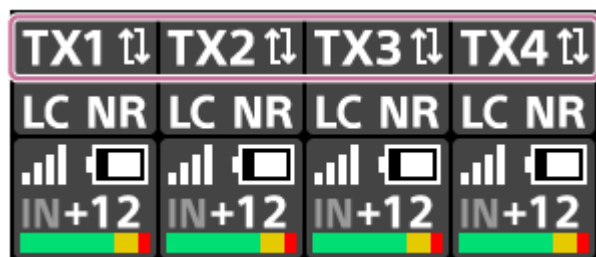
レシーバーの電源を入ると、レシーバーのモニターにマイクステータス画面が表示されます。
マイクステータス画面では、レシーバーと接続しているマイクロホンの設定や状態が確認できます。



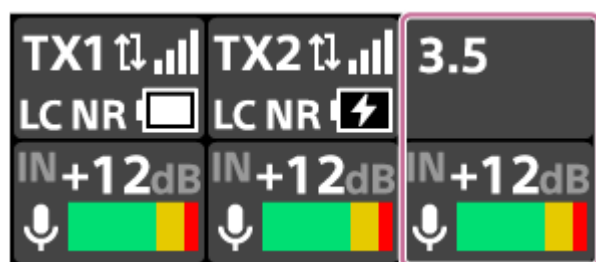
1. 接続しているマイクロホン

2台のマイクロホンと接続しているときは、[TX1] と [TX2]、4台のマイクロホンと接続しているときは [TX1]、[TX2]、[TX3]、[TX4] の4つが表示されます。

マイクロホンの内蔵メモリーに録音中のときは、赤く表示されます。また、マイクロホン内蔵RECメニューの [REC LC/NR FILTER] で [RAW] を設定している場合、設定したマイクロホンの名前の下に [RAW] が表示されます。



2台のマイクロホンと接続しているときに、レシーバーのオーディオ入力端子に外部マイク（別売）やカメラを接続すると、[3.5] と表示されます。



2. OVERWRITE REC設定

[OVERWRITE REC] の設定がオンになっていると、矢印が表示されます。
詳しくは、「[OVERWRITE REC](#)」をご覧ください。

3. マイクロホンとレシーバーの通信強度

4. マイクロホンの内蔵バッテリーの残量

5. LC（ローカット）フィルター／NR（ノイズリダクション）の設定

6. 入力ゲイン表示／レベルメーター

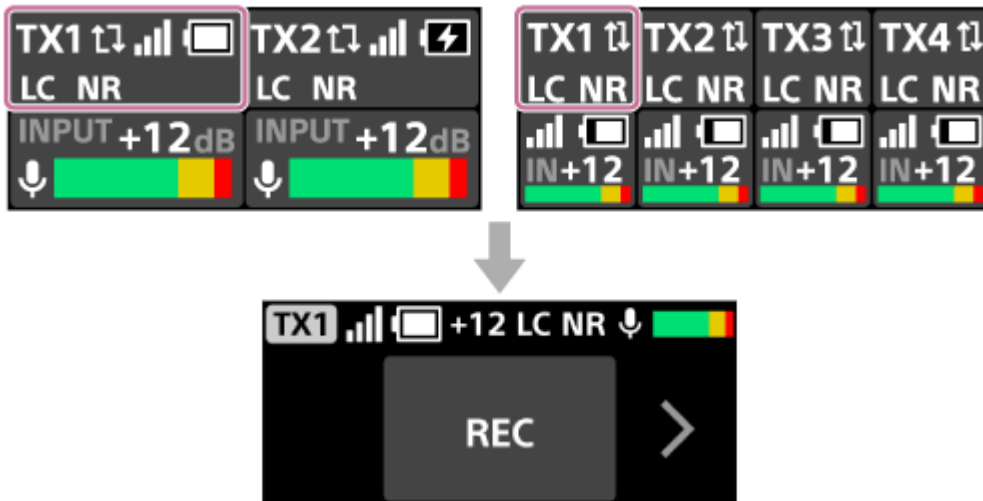
コントロールホイール／ボタンで選択またはタッチすると、入力ゲインの設定画面が表示されて設定変更ができます。

ご注意

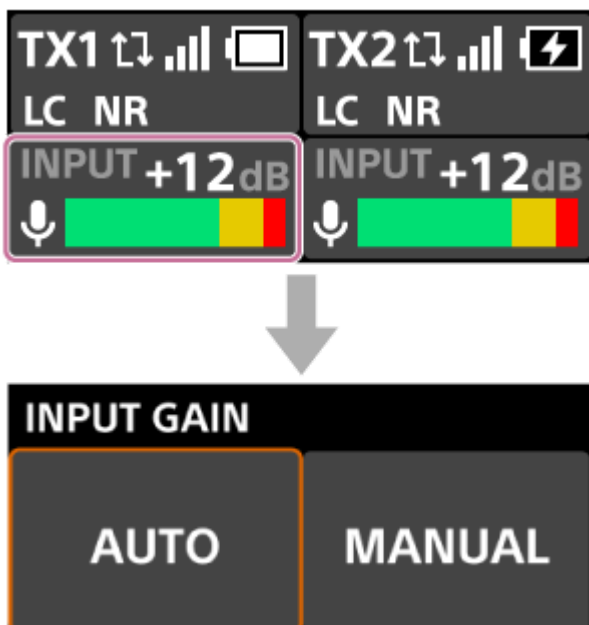
- カメラ側でサンプリング周波数や量子化ビット数を「24 bit/96 kHz」に設定している場合、レシーバーのオーディオ入力端子に外部マイクやカメラをつないでも「3.5」は表示されません。

マイクロホン／外部マイクの設定変更について

- 接続しているマイクロホンおよび外部マイクの名称をコントロールホイール／ボタンで選択またはタッチすると、選択したマイクの入力マイク設定画面が表示されます。
詳しくは、「[入力マイク設定画面](#)」をご覧ください。



- 入力ゲイン表示／レベルメーターをコントロールホイール／ボタンで選択またはタッチすると、入力ゲインの設定画面が表示されます。



入力ゲインの設定を「[AUTO]」または「[MANUAL]」から選択します。
「[AUTO]」に設定すると、入力ゲインが自動的に調整されます。
「[MANUAL]」に設定すると、入力ゲインの数値を手動で調整できます。

関連項目

- [レシーバーステータス画面](#)

- 2台のマイクロホンを使ってカメラで録音する
- 4台のマイクロホンを使ってカメラで録音する
- REC LC/NR FILTER

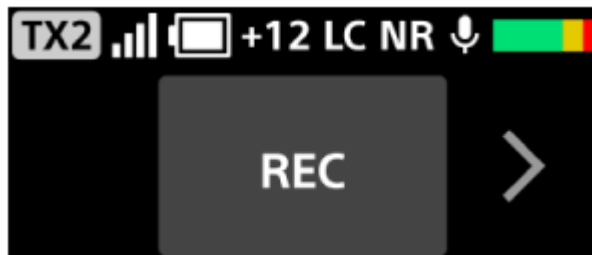
5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

入カマイク設定画面

マイクステータス画面で、接続しているマイクロホンを選択すると表示されます。選択したマイクロホンについて、以下の設定や操作を行います。

- REC



マイクロホンの内蔵メモリーへの録音を開始します。[2TX] または [4TX] モードでレシーバーと接続したマイクロホンを選択すると表示されます。

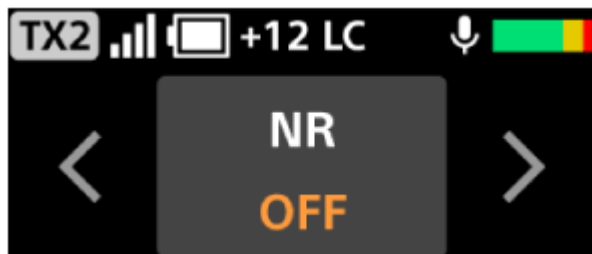
- LC



マイクロホンのLC（ローカット）フィルターのオン／オフを設定します。[2TX] または [4TX] モードでレシーバーと接続したマイクロホンを選択すると表示されます。

[ON] に設定すると、風切り音や空調ノイズ、振動ノイズなどの不要な雑音を低減します。

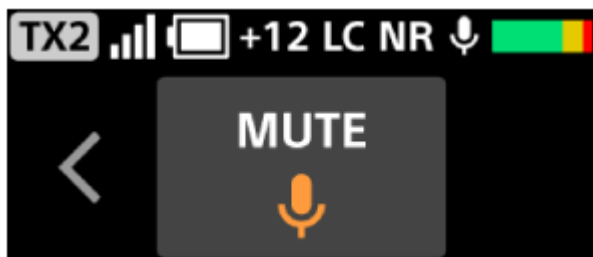
- NR



マイクロホンのNR（ノイズリダクション）のオン／オフを設定します。[2TX] または [4TX] モードでレシーバーと接続したマイクロホンを選択すると表示されます。

[ON] に設定すると、耳障りな雑音をデジタル信号処理で効果的に除去します。音質に違和感が生じる場合には「OFF」に設定してください。

- MUTE



消音のオン／オフを設定します。

ご注意

- カメラ側でサンプリング周波数や量子化ビット数を「24 bit/96 kHz」に設定している場合、NRをオンにしても無効になります。

関連項目

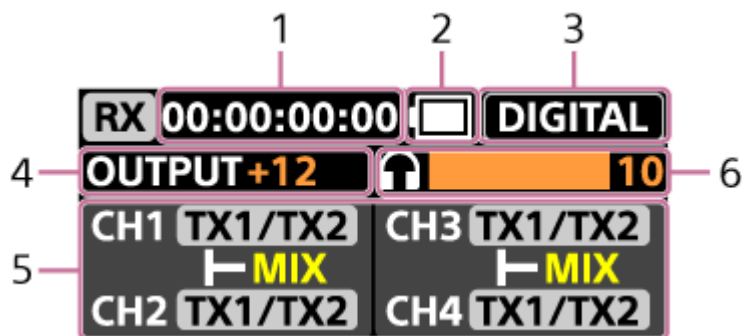
- [マイクステータス画面](#)
- [マイクロホンの内蔵メモリーに録音する](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

レシーバーステータス画面

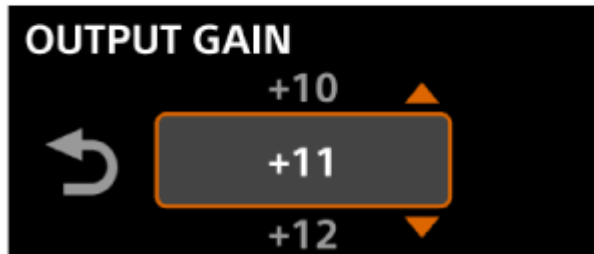
マイクステータス画面でコントロールホイール／ボタンを右に回すと、レシーバーステータス画面が表示され、レシーバーの設定を確認できます。



1. タイムコード
タイムコード機能を使用しているときに表示されます。
2. レシーバーの内蔵バッテリーの残量
3. DIGITAL/ANALOG表示
4. 出力ゲイン表示
5. チャンネル設定
チャンネル設定の表示をコントロールホイール／ボタンで選択またはタッチすると、選択したチャンネルの出力設定画面が表示されます。
詳しくは、「[チャンネル設定について](#)」をご覧ください。
6. ヘッドホンのモニター音量
ヘッドホンでモニターする音声の音量が表示されます。[2TX] モードに設定し、LE Audio対応のヘッドホンを使用して音声をモニターしているときに表示されます。

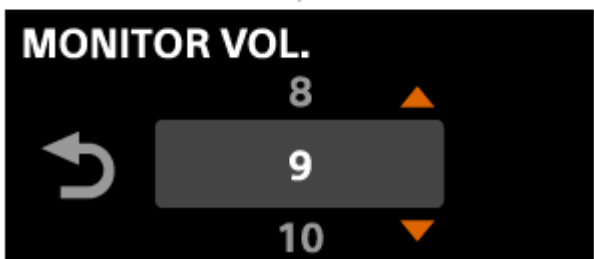
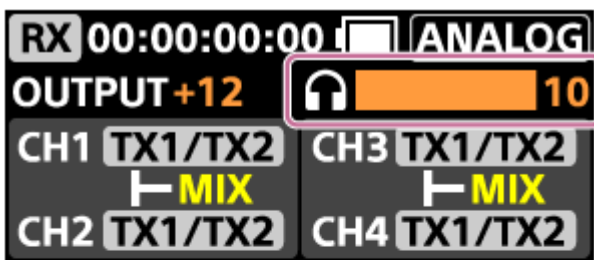
出力ゲイン／ヘッドホンのモニター音量／チャンネルの設定変更について

- 出力ゲイン表示をコントロールホイール／ボタンで選択またはタッチすると、レシーバーの出力ゲイン数値の設定画面が表示されます。



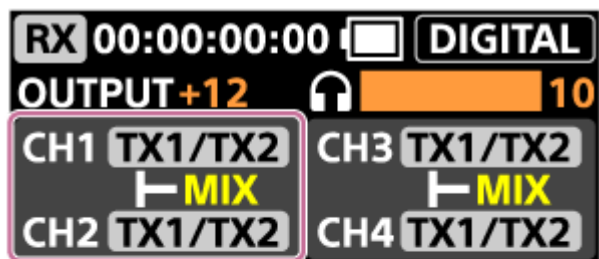
数値を変更しない場合、↶（戻る）をタッチするとレシーバーステータス画面に戻ります。

- ヘッドホンのモニター音量をコントロールホイール／ボタンで選択またはタッチすると、ヘッドホンのモニター音量の設定画面が表示されます。



数値を変更しない場合、↶（戻る）をタッチするとレシーバーステータス画面に戻ります。

- チャンネル設定の表示をコントロールホイール／ボタンで選択またはタッチすると、選択したチャンネルの出力設定画面が表示されます。
詳しくは、「[チャンネル設定について](#)」をご覧ください。



関連項目

- [マイクステータス画面](#)
- [ヘッドホンで音声をモニターする](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

システムステータス画面

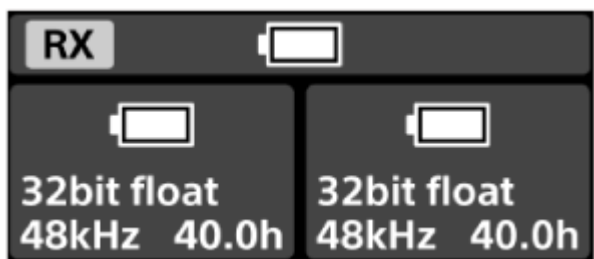
レシーバーを充電ケースに入れるとシステムステータス画面が表示され、レシーバーの内蔵バッテリーの残量が表示されます。

充電中は （充電中）が表示されます。

レシーバーのUSB Type-C端子にUSB Type-Cケーブルを接続して充電する場合も、システムステータス画面が表示されます。充電完了して1分後に消灯します。



レシーバーとマイクロホンの両方を充電ケースに入れている場合は、マイクロホンの内蔵バッテリーの残量、録音の記録方式および録音可能時間も表示されます。



関連項目

- [充電ケースを使って充電する](#)
- [レシーバー／マイクロホンにUSB Type-Cケーブルをつないで充電する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

コントロールメニュー画面

マイクステータス画面またはレシーバースtatus画面で下から上にスワイプすると、コントロールメニュー画面が表示されます。

コントロールメニュー画面から、レシーバーやレシーバーに接続した機器の設定を変更することができます。

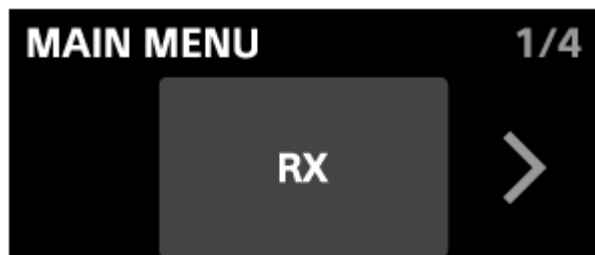
コントロールメニュー画面は、[MAIN MENU] 画面からでも表示できます。マイクステータス画面でコントロールホイール／ボタンを左に回し、表示された[MAIN MENU] 画面でコントロールホイール／ボタンを押してください。

以下の4つのメニューを合わせて[MAIN MENU] と呼びます。

- レシーバーメニュー
- マイクロホン内蔵RECメニュー
- ヘッドホンメニュー
- システムメニュー

レシーバーメニュー (RX)

レシーバーの設定メニューを表示します。

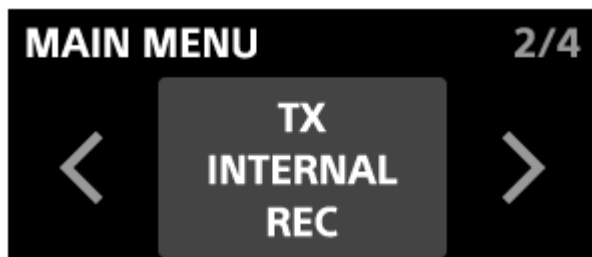


- TIMECODE ON/OFF
- TIMECODE SET.
- PAIRING
- POWER LINK
- MISHOE SET.

マイクロホン内蔵RECメニュー (TX INTERNAL REC)

レシーバーと接続したマイクロホンの設定メニューを表示します。

システムメニューの[MODE SELECT] で、[2TX] または [4TX] に設定しているときに表示されます。

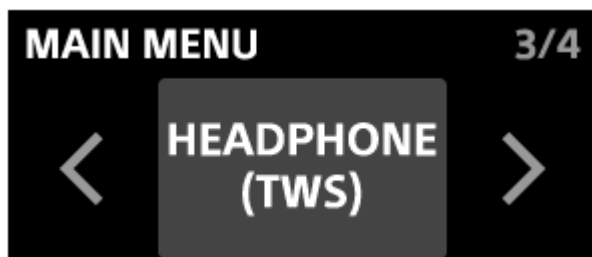


- [AUTO REC](#)
- [TX LINK](#)
- [REC AUDIO SET.](#)
- [REC LC/NR FILTER](#)
- [OVERWRITE REC](#)
- [STORAGE \(DELETE\)](#)

ヘッドホンメニュー (HEADPHONE (TWS))

レシーバーと接続したヘッドホンの設定メニューを表示します。

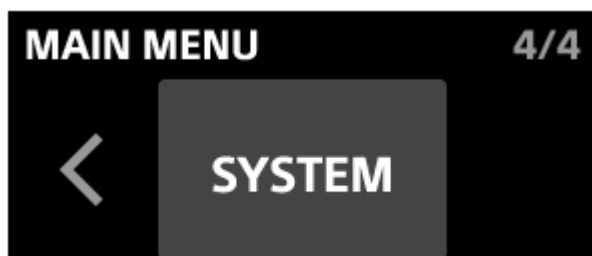
システムメニューの [MODE SELECT] で、[2TX] または [TWS MIC] に設定しているときに表示されます。設定により、表示されるメニューが異なります。



- [MONITOR SET.](#)
- [BINAURAL](#)
- [MIRROR](#)

システムメニュー (SYSTEM)

レシーバー本体のシステム設定メニューを表示します。



- [MODE SELECT](#)
- [BRIGHTNESS](#)
- [DATE/TIME](#)
- [INITIALIZE](#)

- [TX IDENTIFY](#)
- [TX LAMP](#)
- [VERSION](#)

関連項目

- [マイクステータス画面](#)
- [レシーバーステータス画面](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

誤操作を防止する

レシーバーを持ち運ぶ際など、画面をロックしてレシーバーの誤操作を防ぎます。

1 マイクステータス画面を表示した状態で、レシーバーのコントロールホイール／ボタンを1秒間押し続ける。

画面に「[LOCKED]」と表示され、レシーバーの電源のオン／オフ、入力マイク設定画面およびコントロールメニュー画面の操作ができなくなります。



画面のロックを解除するには、マイクステータス画面またはレシーバーステータス画面でコントロールホイール／ボタンを1秒間押し続けます。

ヒント

- 画面をロックしても、マイクステータス画面とレシーバーステータス画面は表示を切り替えることができます。

関連項目

- [マイクステータス画面](#)
- [入力マイク設定画面](#)
- [レシーバーステータス画面](#)
- [コントロールメニュー画面](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

マイクロホンとレシーバーを接続する

マイクロホンとレシーバーをペアリングして接続します。

ECM-W5をお使いの場合、付属の2台のマイクロホンはすでにレシーバーとペアリングされているため、この操作を行う必要はありません。マイクロホンを追加してご使用になる場合は、以下の手順に従ってマイクロホンとペアリングしてください。

1 マイクロホンのON/OFF（電源）ボタンを5秒間長押しする。

マイクロホンのLINKランプが青色にすばやく点滅し、ペアリングモードに入ります。

2 レシーバーを操作して、コントロールメニュー画面で[RX] - [PAIRING]を選択する。

[PAIRING] 画面が表示されます。

レシーバーのON/OFF（電源）ボタンを5秒間長押ししても、[PAIRING] 画面を表示できます。

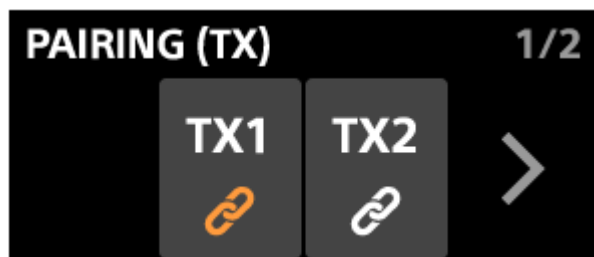
3 レシーバーの[PAIRING]画面で、[TX]を選択する。

[PAIRING (TX)] 画面が表示されます。

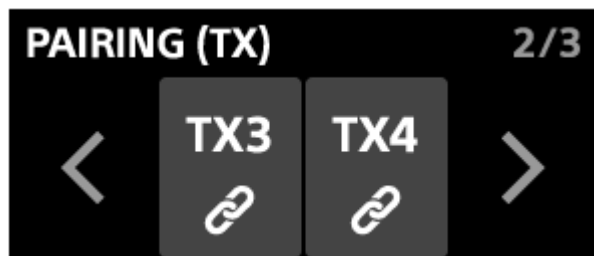
4 ペアリングしたいマイクロホンを選択する。

マイクロホンをスキャンするメッセージが表示されます。

ペアリングと接続が完了すると、マイクロホン名の下の（ペアリング）がオレンジ色で表示されます。



追加で3台目、4台目のマイクロホンをレシーバーとペアリングする場合は、[TX3] と [TX4] を選択してそれぞれペアリングしてください。



ヒント

- 手順4でペアリング済のマイクロホンを選択し、[DELETE] を選択すると、選択したマイクロホンのペアリング情報が削除されます。
また、[PAIRING (TX)] 画面で [ALL DELETE] を選択すると、レシーバーとペアリングしたすべてのマイクロホンとのペアリング情報が削除されます。

- マイクロホンとレシーバーの接続が完了するときに、一瞬ノイズが聞こえることがありますが故障ではありません。録音を開始する前に、あらかじめマイクロホンとレシーバーを接続しておくことをおすすめします。

関連項目

- [コントロールメニュー画面](#)
- [ランプ表示](#)
- [PAIRING](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

ヘッドホンとレシーバーを接続する

ワイヤレスヘッドホンとレシーバーをペアリングして接続します。

1 レシーバーを操作して、コントロールメニュー画面で[RX] - [PAIRING]を選択する。

[PAIRING] 画面が表示されます。

レシーバーのON/OFF（電源）ボタンを5秒間長押ししても、[PAIRING] 画面を表示できます。

2 お使いのヘッドホンをペアリングモードにする。

詳しくは、お使いのヘッドホンに付属の取扱説明書をご覧ください。

3 レシーバーの[PAIRING]画面で、[TWS]を選択する。

[PAIRING (TWS)] 画面が表示されます。

4 [START TWS SCAN]を選択する。

ヘッドホンをスキャンするメッセージが表示されます。

5 表示されたヘッドホンの一覧から、ペアリングしたいヘッドホンを選択する。

ペアリングと接続が完了すると、[PAIRING (TWS)] 画面にヘッドホンの名前と、[Classic Audio] または [LE Audio] が表示されます。

- Classic Audio

Classic Audio専用ヘッドホンと接続しているか、Classic Audioモードで接続されている状態です。ヘッドホンのマイクを使用した録音機能（モノラル）を使用できますが、モニタリング機能、バイノーラル録音機能は使用できません。

ソニー製LE Audio対応ヘッドホンをお使いの場合は、スマートフォンアプリ“Sony | Sound Connect”を使って、LE Audio優先モードに切り替えることをおすすめします。

“Sony | Sound Connect”について詳しくは、こちらからご確認ください。

<https://www.sony.jp/headphone/special/soundconnect/>

- LE Audio

LE Audioモードで接続されている状態です。ヘッドホンのマイクを使用した録音機能およびモニタリング機能を使用できます。また、バイノーラル録音対応のヘッドホンをお使いの場合は、バイノーラル録音機能も使用できます。

本機とヘッドホンの互換性について詳しくは、こちらからご確認ください。

<https://www.sony.net/di/TWS/>

ご注意

- お使いのヘッドホンをClassic Audioモードで接続している場合、“Sony | Sound Connect”でLE Audio優先モードに切り替えたときは、一度ヘッドホンのペアリング情報を削除してから再度ペアリングしなおしてください。再度ペアリングと接続が完了すると、ヘッドホンの名前と [LE Audio] が表示されます。

ヒント

- 手順5でペアリング済のヘッドホンを選択し、[DELETE]を選択すると、選択したヘッドホンのペアリング情報が削除されます。

関連項目

- [コントロールメニュー画面](#)
- [PAIRING](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

マイクロホンとスマートフォン／パソコンを接続する

マイクロホンとお使いのスマートフォンやパソコンをペアリングして接続します。

- 1 お使いのスマートフォンまたはパソコンのBluetooth機能をオンにし、ペアリングモードにする。
- 2 マイクロホンのON/OFF（電源）ボタンを短く2回押す。
マイクロホンのLINKランプが黄色にすばやく点滅し、自動でペアリングモードに入ります。
マイクロホンとレシーバーが接続中の場合は、接続が解除されます。
- 3 お使いのスマートフォンまたはパソコンでBluetooth接続機器の一覧からマイクロホンを選択する。
ペアリングと接続が完了すると、マイクロホンのLINKランプが黄色に点灯します。

関連項目

- [ランプ表示](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

2台のマイクロホンを使ってカメラで録音する

レシーバーと接続した2台のマイクロホンを使ってカメラで録音します。

- 1 レシーバーのコントロールメニュー画面から【SYSTEM】 - 【MODE SELECT】を選択し、【2TX】に設定する。
詳しくは、「[MODE SELECT](#)」をご覧ください。
 - 2 レシーバーとマイクロホン2台を接続する。
詳しくは、「[マイクロホンとレシーバーを接続する](#)」をご覧ください。
ECM-W5をお使いの場合、付属の2台のマイクロホンはすでにレシーバーと接続されているため、この操作を行う必要はありません。
 - 3 レシーバーをカメラのマルチインターフェースシューに接続している場合は、レシーバーステータス画面で音声の出力方法 (a) を確認する。
お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース対応機器の場合は【DIGITAL】に、非対応機器の場合は、【ANALOG】に設定してください。
-
- 設定の切り替えについて詳しくは、「[MISHOE SET.](#)」をご覧ください。
- 4 必要に応じてチャンネルやマイクロホンの設定を変更する。
設定の変更は、レシーバーのコントロールメニュー画面や入力マイク設定画面から行ってください。
 - 5 レシーバーを接続したカメラで録音を開始する。
カメラ側の設定については「[カメラ側でサンプリング周波数や量子化ビット数を設定する](#)」もあわせてご覧ください。

ご注意

- レシーバーをデジタルオーディオインターフェース対応のカメラと接続中に、マイクロホンの入力ゲインを下げた状態で録音した場合、録音した音声の編集時や再生時に音量を大きく上げると、お使いのカメラやカメラの設定によっては雑音が入ることがあります。その場合は、マイクロホンの入力ゲインを上げるか、カメラ側で量子化ビット数を24 bit以上に設定することをおすすめします。

関連項目

- [レシーバーステータス画面](#)
- [コントロールメニュー画面](#)
- [チャンネル設定について](#)
- [入力マイク設定画面](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

4台のマイクロホンを使ってカメラで録音する

レシーバーと接続した4台のマイクロホンを使ってカメラで録音します。

- 1 レシーバーのコントロールメニュー画面から【SYSTEM】 - 【MODE SELECT】を選択し、【4TX】に設定する。

詳しくは、「[MODE SELECT](#)」をご覧ください。

- 2 レシーバーとマイクロホン4台を接続する。

詳しくは、「[マイクロホンとレシーバーを接続する](#)」をご覧ください。

- 3 レシーバーをカメラのマルチインターフェースシューに接続している場合は、レシーバーステータス画面で音声の出力方法 (a) を確認する。

お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース対応機器の場合は【DIGITAL】に、非対応機器の場合は、【ANALOG】に設定してください。



設定の切り替えについて詳しくは、「[MISHOE SET.](#)」をご覧ください。

- 4 必要に応じてチャンネルやマイクロホンの設定を変更する。

設定の変更は、レシーバーのコントロールメニュー画面や入力マイク設定画面から行ってください。

- 5 レシーバーを接続したカメラで録音を開始する。

カメラ側の設定については「[カメラ側でサンプリング周波数や量子化ビット数を設定する](#)」もあわせてご覧ください。

ご注意

- レシーバーをデジタルオーディオインターフェース対応のカメラと接続中に、マイクロホンの入力ゲインを下げた状態で静かな環境で録音した場合、録音した音声の編集時や再生時に音量を大きく上げると、お使いのカメラやカメラの設定によっては雑音が入ることがあります。その場合は、マイクロホンの入力ゲインを上げるか、カメラ側で量子化ビット数を24 bit以上に設定することをおすすめします。

関連項目

- [レシーバーステータス画面](#)
- [コントロールメニュー画面](#)
- [チャンネル設定について](#)
- [入力マイク設定画面](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

ヘッドホンをマイクとして使用しカメラで録音する

レシーバーと接続したワイヤレスヘッドホンをマイクとして使用し、カメラで録音します。

- 1 **レシーバーのコントロールメニュー画面から【SYSTEM】－【MODE SELECT】を選択し、【TWS MIC】に設定する。**

詳しくは、「[【MODE SELECT】](#)」をご覧ください。

- 2 **レシーバーとヘッドホンを接続する。**

詳しくは、「[ヘッドホンとレシーバーを接続する](#)」をご覧ください。

- 3 **必要に応じてヘッドホンの設定を変更する。**

設定の変更は、レシーバーのコントロールメニュー画面や入力マイク設定画面から行ってください。
モノラルマイク搭載のヘッドホンをお使いの場合は、CH1とCH2に同じヘッドホンマイクの音声が出力されます。
ステレオマイク搭載のヘッドホンをお使いの場合は、ヘッドホンからのステレオ音声をCH1とCH2に分けて出力することができます。

- 4 **レシーバーを接続したカメラで録音を開始する。**

関連項目

- [コントロールメニュー画面](#)
- [チャンネル設定について](#)
- [入力マイク設定画面](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

レシーバーに外部マイクを接続してカメラで録音する

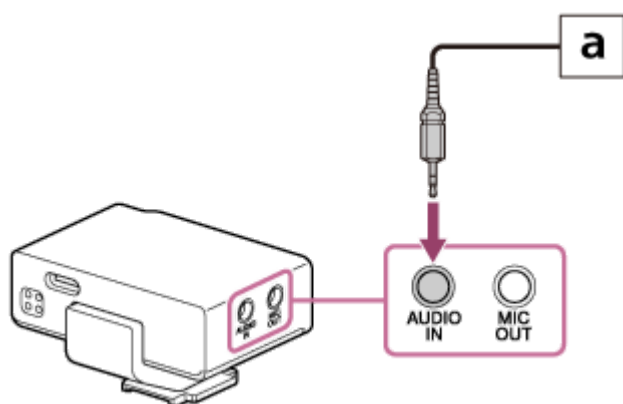
外部マイク（別売）をレシーバーに接続してカメラで録音します。

この操作は、レシーバーでモードを「2TX」に設定しているときに行うことができます。

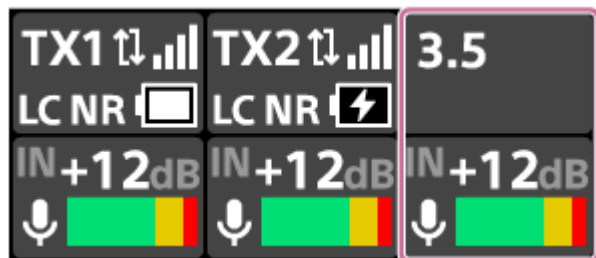
- 1 レシーバーのコントロールメニュー画面から「SYSTEM」－「MODE SELECT」を選択し、「2TX」に設定する。

詳しくは、「[MODE SELECT](#)」をご覧ください。

- 2 レシーバーのオーディオ入力端子に外部マイク（a）を接続する。



外部マイクが接続されると、マイクステータス画面に接続したマイクの情報が表示されます。



- 3 チャンネル設定を変更する。

レシーバーステータス画面でチャンネル設定の表示を選択すると、チャンネル設定画面が表示されます。外部マイクの音声を出力したいチャンネルに「3.5」を設定してください。

詳しくは、「[チャンネル設定について](#)」をご覧ください。

- 4 必要に応じて外部マイクの設定を変更する。

設定の変更は、入力マイク設定画面から行ってください。

- 5 レシーバーを接続したカメラで録音を開始する。

カメラ側の設定については「[カメラ側でサンプリング周波数や量子化ビット数を設定する](#)」もあわせてご覧ください。

関連項目

- [マイクステータス画面](#)
- [レシーバーステータス画面](#)
- [コントロールメニュー画面](#)
- [入力マイク設定画面](#)

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

マイクロホンに外部マイクを接続してカメラで録音する

外部マイク（別売）をマイクロホンに接続してカメラで録音します。録音される音はモノラルになります。

ご注意

- マイクロホンにウインドスクリーンを取り付けている場合は、取り外してください。

1 マイクロホンの電源を切った状態で、外部マイク（a）を外部マイク入力端子に接続する。

外部マイクに入力された音が、カメラで録音されます。



ロックプラグ付きの外部マイクを使用する場合は、外部マイク入力端子に差し込んだあと、プラグのロックリングを時計回りに回して固定してください。

ご注意

- ステレオ対応の外部マイクを接続した場合、左右のチャンネルに入力された音声は、ミックスされてモノラルで録音されます。
- マイクロホンの外部マイク入力端子は、プラグインパワー方式の外部マイクに対応しています。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

カメラ側でサンプリング周波数や量子化ビット数を設定する

レシーバーをカメラに取り付けたあと、カメラ側でサンプリング周波数や量子化ビット数の設定を行うことで、「32 bit float/48 kHz」や「24 bit/96 kHz」などの記録方式でカメラで録音することができます。
設定方法について詳しくは、お使いのカメラの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 24 bit/96 kHzでの録音は、レシーバーの [MODE SELECT] で [2TX] を選択しているときのみカメラ側で設定できます。
[4TX] または [TWS MIC] を選択しているときは設定できません。
- レシーバーにヘッドホンを接続して音声をモニターする場合、96 kHzの設定には対応していません。そのため、レシーバーの [MODE SELECT] が [2TX]、カメラ側が「24 bit/96 kHz」の設定のときは、ヘッドホンで音声をモニターすることができません。このとき、レシーバーメニューで [MISHOE SET.] を [DIGITAL] から [ANALOG] に変更した場合も、モニターできない状態が続きます。その場合は、レシーバーを再起動してください。
また、「24 bit/96 kHz」に設定して録音した動画ファイルの音声をヘッドホンでモニターした場合、音声にノイズが入ることがあります。これは、本機の仕様によるもので故障ではありません。「24 bit/96 kHz」に設定して録音した動画ファイルの音声をモニターする場合は、カメラのヘッドホン出力端子に有線で接続したヘッドホンを使って音声をモニターしてください。
- タイムコード機能をオンにして [OUTPUT MODE] を [AUDIO OUT] に設定している場合、カメラ側で「24 bit/96 kHz」に設定しているときは、タイムコード信号が出力されるチャンネル以外の出力設定が [TX1/TX2] の [MIX] のみになります。

関連項目

- [MODE SELECT](#)
- [MISHOE SET.](#)
- [ヘッドホンで音声をモニターする](#)
- [MONITOR SET.](#)
- [TIMECODE SET.](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

ヘッドホンで音声をモニターする

レシーバーの[MODE SELECT]を[2TX]に設定してカメラで録音しているときに、マイクロホンに入力された音声、またはカメラに入力された音声をヘッドホンでモニターすることができます。カメラに入力された音声をモニターするには、レシーバーのオーディオ入力端子とカメラのヘッドホン出力端子を接続する必要があります。

1 レシーバーとヘッドホンを接続する。

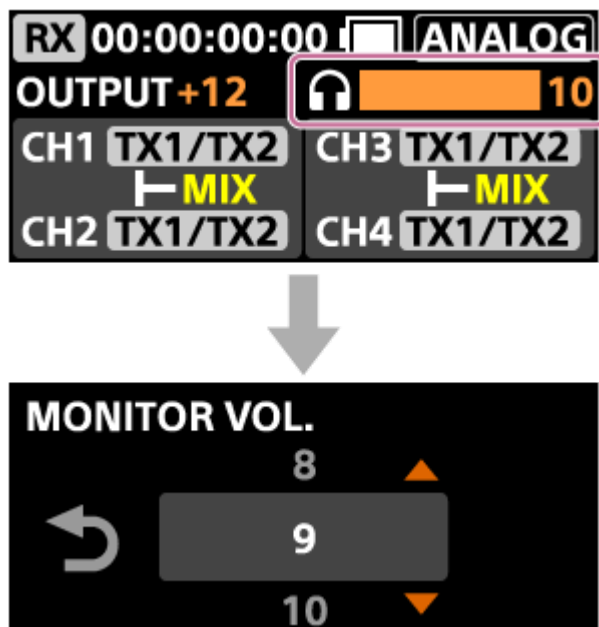
詳しくは、「[ヘッドホンとレシーバーを接続する](#)」をご覧ください。

2 ヘッドホンの設定を行う。

レシーバーのコントロールメニュー画面から、[HEADPHONE (TWS)]を選択して設定します。
マイクロホンの音声をモニターする場合は[CH1 / CH2]、カメラの音声をモニターする場合は[CAM HP]に設定します。
設定内容について詳しくは、「[MONITOR SET.](#)」をご覧ください。

3 ヘッドホンのモニターの音量を調節する。

- レシーバーステータス画面を表示する。
- コントロールホイール／ボタンを押してカーソルを表示する。
- ヘッドホンの音量表示を選択して決定し、[MONITOR VOL.]画面でモニター音量を調整する。
タッチ操作の場合は、画面の右半分をタッチすると[MONITOR VOL.]画面が表示されます。



コントロールホイール／ボタンを回すか、画面を上下にスワイプしてモニター音量の数値を選択してください。数値を選択後、コントロールホイール／ボタンを押すか、タッチして決定します。
数値を変更しない場合、（戻る）をタッチするとレシーバーステータス画面に戻ります。

- レシーバーにヘッドホンを接続して音声をモニターする場合、96 kHzの設定には対応していません。そのため、レシーバーの [MODE SELECT] が [2TX]、カメラ側が「24 bit/96 kHz」の設定のときは、ヘッドホンで音声をモニターすることができません。このとき、レシーバーメニューで [MISHOE SET.] を [DIGITAL] から [ANALOG] に変更した場合も、モニターできない状態が続きます。その場合は、レシーバーを再起動してください。
また、「24 bit/96 kHz」に設定して録音した動画ファイルの音声をヘッドホンでモニターした場合、音声にノイズが入ることがあります。これは、本機の仕様によるもので故障ではありません。「24 bit/96 kHz」に設定して録音した動画ファイルの音声をモニターする場合は、カメラのヘッドホン出力端子に有線で接続したヘッドホンを使って音声をモニターしてください。
- ヘッドホンのモニター音量を最大にしてもモニター音量が小さいと感じる場合、ヘッドホン側の音量が小さくなっている可能性があります。その場合は、ヘッドホン側の音量を上げてください。操作方法について詳しくは、お使いのヘッドホンに付属の取扱説明書をご覧ください。

関連項目

- [レシーバーステータス画面](#)
- [コントロールメニュー画面](#)
- [MODE SELECT](#)
- [MISHOE SET.](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

タイムコード機能を使う

タイムコード機能をオンにすると、レシーバーに接続したカメラなどの機器に、タイムコード信号が出力されます。タイムコード信号を受けた機器で録音／録画を行うことで、タイムコード情報が記録されます。録音／録画データを編集する際に、タイムコード情報を確認して同期することで、映像と音声のタイミングを正確に合わせることができます。

- 1 レシーバーのコントロールメニュー画面から、[RX] を選択する。
- 2 [TIMECODE ON/OFF] を [ON] に設定する。
タイムコード機能がオンになります。
- 3 タイムコードを同期する機器の設定や用途にあわせて、[TIMECODE SET.] で以下を設定する。
 - フレームレート
 - タイムコードの表示方法
 - タイムコード信号の出力方法

設定内容について詳しくは、「[TIMECODE SET.](#)」をご覧ください。
カメラ側の設定について詳しくは、お使いのカメラの取扱説明書をご覧ください。

関連項目

- [レシーバーをカメラに取り付ける](#)
- [コントロールメニュー画面](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

マイクロホンの内蔵メモリーに録音する

マイクロホンのREC（録音）ボタンを押す、またはレシーバーの入力マイク設定画面で「REC」を選択すると、マイクロホンの内蔵メモリーに録音できます。

録音中にマイクロホンの内蔵メモリーの容量がいっぱいになったときに、内蔵メモリーを上書きするか、内蔵メモリーへの録音を停止するかを設定することもできます。詳しくは、「[OVERWRITE REC](#)」をご覧ください。

録音データをパソコンで確認するには

マイクロホンの内蔵メモリーにある録音データをパソコンで確認したり、録音データのファイルをパソコンにコピーするなどして、バックアップをとったりすることができます。

1. 市販のUSB Type-Cケーブルを使って、マイクロホンとパソコンを接続する。
マイクロホンを充電ケースに入れて、充電ケースのUSB Type-C端子とパソコンを接続することもできます。
2. エクスプローラー（Windows）またはFinder（Mac）で、マイクロホンのストレージを表示する。
録音データのファイルは、日付ごとに作成されたフォルダ内に保存されています。

ご注意

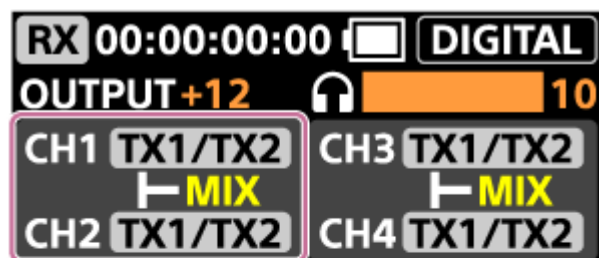
- マイクロホンがパソコンに接続されている間、マイクロホンとレシーバーとの接続は切断され、音声は録音されません。
- マイクロホンからパソコンにファイルをコピーしているときは、マイクロホンの電源を切ったりUSB Type-Cケーブルを抜いたりしないでください。ファイルが破損する可能性があります。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

チャンネル設定について

レシーバーステータス画面で、チャンネル設定の表示をコントロールホイール／ボタンで選択またはタッチすると、選択したチャンネルの出力設定画面が表示されます。

カメラで録音を開始する前に、レシーバーの出力設定を選択します。

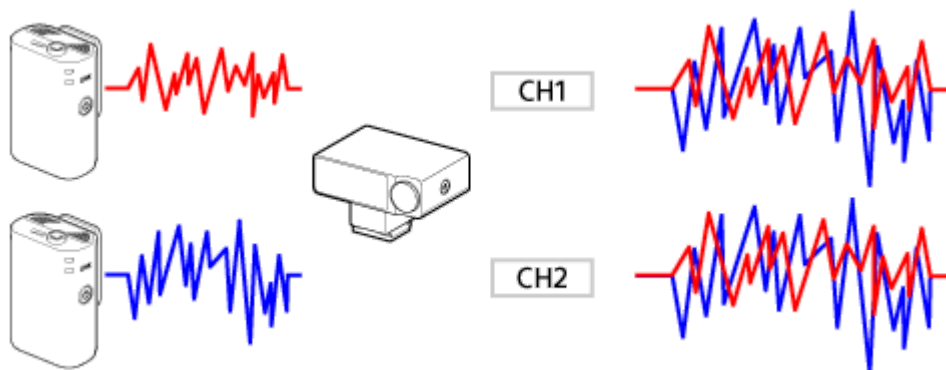


MIX/SEP設定について

複数のマイクロホンに入力された音声を1つにまとめて出力するか、別々に出力するかを設定することができます。

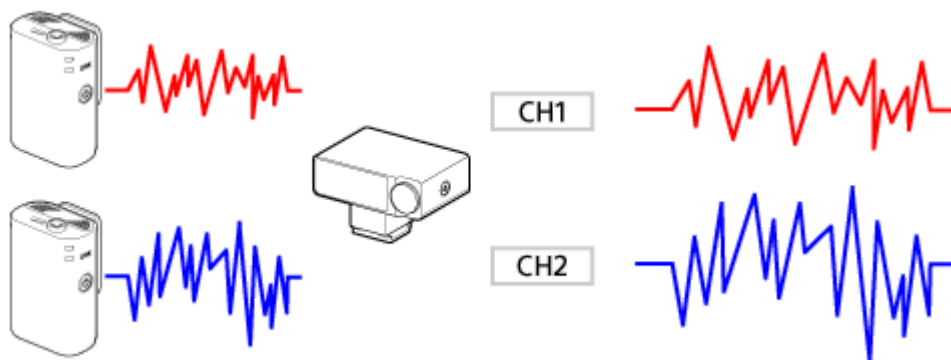
- **MIX**

複数のマイクロホンに入力された音声をミックスして出力します。



- **SEP**

複数のマイクロホンに入力された音声を、それぞれ異なるチャンネルに出力します。



出力先の設定について

複数のマイクロホンに入力された音声を指定したチャンネルに出力することができます。

2台のマイクロホンを使う場合

2台のマイクロホン（TX1、TX2）に入力された音声の出力先をCH1-2またはCH3-4から選択します。以下は、CH1-2に2台のマイクロホンの音声を出力する例です。マイクロホンの音声をCH3-4に出力することもできます。

出力先	MIX/SEP設定	CH1の音声	CH2の音声	CH3の音声	CH4の音声
CH1-2	TX1/TX2: MIX	TX1 + TX2	TX1 + TX2	—	—
CH1-2	TX1/TX2: SEP	TX1	TX2	—	—

2台のマイクロホンとレシーバーに接続した外部マイクを使う場合

2台のマイクロホン（TX1、TX2）と外部マイクに入力された音声の出力先をCH1-2またはCH3-4から選択します。以下は、CH1-2に2台のマイクロホンの音声、CH3-4に外部マイクの音声を出力する例です。外部マイクは「3.5」と表示されます。マイクロホンの音声をCH3-4、外部マイクの音声をCH1-2に出力することもできます。

出力先	MIX/SEP設定	CH1の音声	CH2の音声	CH3の音声	CH4の音声
CH1-2	TX1/TX2: MIX	TX1 + TX2	TX1 + TX2	—	—
CH1-2	TX1/TX2: SEP	TX1	TX2	—	—
CH3-4	3.5: MIX	—	—	3.5 MIC (Stereo)	3.5 MIC (Stereo)
CH3-4	3.5: SEP	—	—	3.5 MIC (Stereo) L側	3.5 MIC (Stereo) R側

4台のマイクロホンを使う場合

4台のマイクロホン（TX1、TX2、TX3、TX4）に入力された音声の出力先をCH1-2またはCH3-4から選択します。以下は、CH1-2にTX1とTX2の音声、CH3-4にTX3とTX4の音声を出力する例です。TX1とTX2の音声をCH3-4に、TX3とTX4の音声をCH1-2に出力することもできます。

出力先	MIX/SEP設定	CH1の音声	CH2の音声	CH3の音声	CH4の音声
CH1-2	TX1/TX2: MIX	TX1 + TX2	TX1 + TX2	—	—
CH1-2	TX1/TX2: SEP	TX1	TX2	—	—
CH3-4	TX3/TX4: MIX	—	—	TX3 + TX4	TX3 + TX4
CH3-4	TX3/TX4: SEP	—	—	TX3	TX4

4台のマイクロホンの音声をミックスして、各チャンネルに出力することもできます。その場合、MIX/SEP設定を変更して、[TX1-4]が表示されていること確認してください。

出力先	MIX/SEP設定	CH1の音声	CH2の音声	CH3の音声	CH4の音声
CH1-2	TX1-4: MIX	TX1 + TX2 + TX3 + TX4	TX1 + TX2 + TX3 + TX4	—	—
CH3-4	TX1-4: MIX	—	—	TX1 + TX2 + TX3 + TX4	TX1 + TX2 + TX3 + TX4

●

ご注意

チャンネル設定を行ったあとに [MODE SELECT] の設定を変更すると、チャンネル設定は初期状態に戻ります。[MODE SELECT] の設定を変更した場合は、チャンネル設定をし直してください。

関連項目

- [レシーバーステータス画面](#)
- [2台のマイクロホンを使ってカメラで録音する](#)
- [4台のマイクロホンを使ってカメラで録音する](#)
- [レシーバーに外部マイクを接続してカメラで録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

TIMECODE ON/OFF

レシーバーメニューの「TIMECODE ON/OFF」について説明します。



「ON」に設定すると、タイムコード機能がオンになります。
レシーバーメニューの「TIMECODE SET.」で「OUTPUT MODE」を「AUDIO OUT」に設定している場合、タイムコード信号がCH2またはCH4に出力されます。出力先の設定に応じて、レシーバーステータス画面の「CH2」または「CH4」に「TC」が表示されます。
CH4にタイムコード信号を出力するには、デジタルオーディオインターフェース対応カメラとレシーバーを接続し、カメラ側で4チャンネル音声収録の設定を行ってください。カメラ側の設定について詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。

タイムコード機能を使って録音中に、レシーバーと接続したヘッドホンでCH1とCH2の音声をモニターする場合、CH2のタイムコード信号はヘッドホンに送信されず、CH1に設定されている音声のみモニターすることができます。

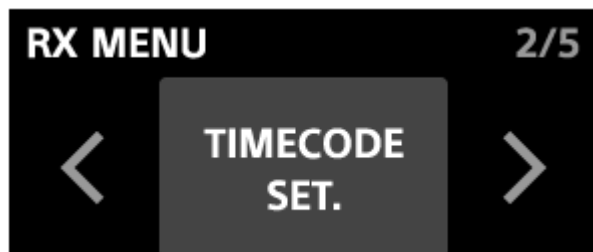
関連項目

- [レシーバーステータス画面](#)
- [ヘッドホンで音声をモニターする](#)
- [タイムコード機能を使う](#)
- [TIMECODE SET.](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

TIMECODE SET.

レシーバーメニューの「TIMECODE SET.」について説明します。



タイムコード機能について、以下を設定します。

● FRAME RATE

タイムコードを同期する機器の設定に合わせて、フレームレートを以下から選択します。

- 23.98fps
- 24fps
- 25fps
- 29.97fps DF
- 29.97fps
- 30fps

● COUNT MODE

タイムコードの表示方法を選択します。

〔REAL TIME〕：

レシーバーで設定した時刻を反映し、〔HH:MM:SS:FF〕（時／分／秒／フレーム）の形式で表示されます。

〔COUNT UP〕：

〔00:00:00:00〕からカウントアップします。⌂（リセット）を選択すると、カウンターがリセットされます。

● OUTPUT MODE

タイムコード信号の出力方法を選択します。

〔AUDIO OUT〕：

オーディオタイムコード形式でタイムコード信号を出力します。また、出力先を〔CH2〕または〔CH4〕から選択することができます。

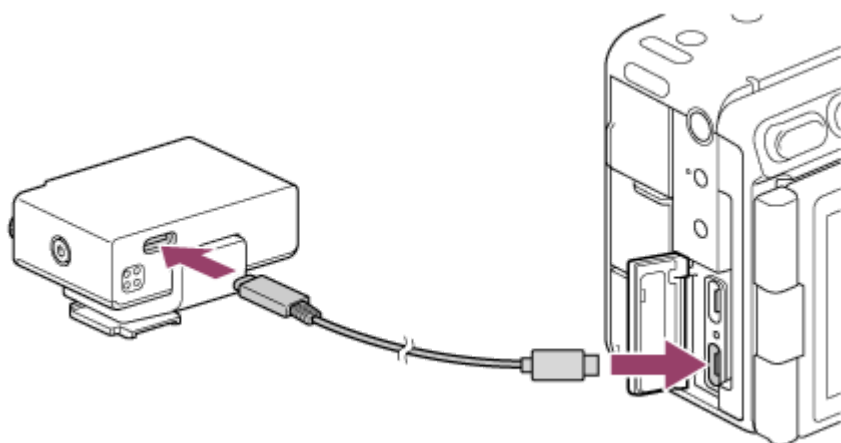
下記のような場合は4チャンネル出力に対応していないため、〔CH2〕に設定することをおすすめします。〔CH4〕に設定した場合、タイムコード信号は出力されません。

- デジタルオーディオインターフェース非対応カメラのマルチインターフェースシューにレシーバーをアナログ接続している場合
- レシーバーとUSBオーディオ対応機器をUSB接続してUSBオーディオ出力している場合
- レシーバーのマイク出力端子とカメラのマイク入力端子を、市販のØ3.5 mmプラグ付きTRSオーディオケーブルで接続している場合

デジタルオーディオインターフェース対応カメラのマルチインターフェースシューにレシーバーを接続している場合は、〔CH4〕を選択することができます。

〔USB SYNC〕：

USB Type-Cケーブルを使ってレシーバーとカメラを直接接続し、同期したタイムコードを出力することができます。本機能に対応したカメラと接続した場合に使用することができます。



対応カメラとレシーバーを接続するときは、USB 3.0以降のデータ通信または5 Gbps以上のデータ転送に対応しているUSB Type-Cケーブル（USB-C–USB-C）をお使いください。

対応カメラ側の設定について詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- タイムコード機能を使用中にレシーバーの時刻設定を変更した場合、すぐにはタイムコードに反映されません。変更後の時刻を反映するには、以下のいずれかの操作を行ってください。
 - [TIMECODE ON/OFF] の設定を [OFF] に切り替えてから、再度 [ON] に設定する。
 - [COUNT MODE] の設定を [COUNT UP] に切り替えてから、再度 [REAL TIME] に設定する。
- [OUTPUT MODE] を [AUDIO OUT] に設定している場合、カメラなどレシーバーと接続している機器に非常に大音量のタイムコード信号を出力します。レシーバーに接続している機器経由でこの信号をモニターしないようご注意ください。
- USB Type-Cケーブル経由での [USB SYNC]（タイムコード同期）に対応しているカメラは、2026年9月時点でILME-FX5のみになります。以降発売するカメラとの互換性については、以下のサイトで確認ください。
 - ECM-W5
<https://www.sony.net/dics/ecmw5/>
 - ECM-W5R
<https://www.sony.net/dics/ecmw5r/>
- レシーバーをカメラのマルチインターフェースシューに取り付けている状態で、レシーバーと他の機器をUSB接続した場合、カメラとレシーバーのマルチインターフェースシューでの接続は解除されます。

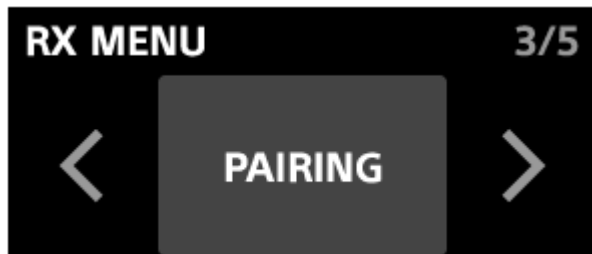
関連項目

- [タイムコード機能を使う](#)
- [チャンネル設定について](#)
- [TIMECODE ON/OFF](#)
- [DATE/TIME](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

PAIRING

レシーバーメニューの [PAIRING] について説明します。



レシーバーとマイクロホンまたはヘッドホンのペアリング操作を行います。

- **TX**

マイクロホンとのペアリング操作を行います。
ペアリングしたいマイクロホンの名前を選択してください。
詳しくは、「[マイクロホンとレシーバーを接続する](#)」をご覧ください。

- **TWS**

ヘッドホンとのペアリング操作を行います。
ペアリングしたいヘッドホンの名前を選択してください。
詳しくは、「[ヘッドホンとレシーバーを接続する](#)」をご覧ください。
ペアリング済のヘッドホンがある場合は、ヘッドホンの名前が表示されます。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

POWER LINK

レシーバーメニューの「POWER LINK」について説明します。



レシーバーとレシーバーに接続した機器の電源のオン／オフを連動させるように設定します。

● RX-TX

「ON」に設定すると、レシーバーの電源のオン／オフに連動して、マイクロホンの電源もオン／オフします。
ただし、マイクロホンのほうで電源オン／オフ操作をしても、レシーバーの電源オン／オフは連動しません。

● CAM-RX

「ON」に設定すると、レシーバーに接続したカメラの電源のオン／オフに連動して、レシーバー電源もオン／オフします。
ただし、レシーバーのほうで電源オン／オフ操作をしても、カメラの電源オン／オフは連動しません。

ご注意

- 「RX-TX」を「ON」にしている場合、レシーバーとマイクロホンの電源がオフでも消費電力が増えます。また、「CAM-RX」を「ON」にしている場合、レシーバーの電源がオフでも消費電力が増えます。
レシーバー／マイクロホンを充電ケースに入れると、POWER LINKの設定が自動的に「OFF」になり電力消費を抑えることができます。レシーバー／マイクロホンを使用していないときは、充電ケースに入れることをおすすめします。
- 「RX-TX」を「ON」にして充電ケースにレシーバーのみを入れた場合、充電ケースからレシーバーを取り出して自動的に電源がオンになってもマイクロホンの電源はオンになりません。その場合は、手動でマイクロホンの電源を入れてください。
- POWER LINKの設定は、レシーバー／マイクロホンの電源が入っている状態で、レシーバーとマイクロホンとの間で通信が行われたときに反映されます。
- 「CAM-RX」を「ON」にしている場合、カメラの電源をオン／オフしてから数秒遅れてレシーバーの電源がオン／オフしますが、故障ではありません。
- 「CAM-RX」を「ON」にして、レシーバーとデジタルオーディオインターフェース非対応のカメラを接続している場合、カメラの電源オンに連動してレシーバーの電源がオンになるときに、数秒間カメラ側に警告が表示されますが故障ではありません。レシーバーが起動完了するとカメラ側の警告表示も自動で消え、問題なく使用することができます。
- 「CAM-RX」を「ON」に設定していて、レシーバーの電源を入れた直後にカメラの電源を切った場合は、カメラに連動してレシーバーの電源が切れないことがあります。その場合は、手動でレシーバーの電源を切ってください。
カメラに連動してレシーバーの電源を切るには、レシーバーが起動してからカメラの電源を切る必要があります。
- ヘッドホンメニューの「MONITOR SET.」を「CAM HP」に設定していて、レシーバーのオーディオ入力端子とカメラのヘッドホン出力端子を接続しているときは、「POWER LINK」の「CAM-RX」を「ON」にしてもレシーバーの電源オン／オフがカメラと連動しません。手動でレシーバーの電源をオン／オフしてください。

- レシーバー／マイクロホンの電源を入れる／切る
- 充電ケースを使って充電する

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

MISHOE SET.

レシーバーメニューの「MISHOE SET.」について説明します。



接続しているカメラの種類に応じて、「DIGITAL」または「ANALOG」に設定します。

- **DIGITAL**
お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェースに対応している場合に選択します。
- **ANALOG**
お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェースに対応していない場合に選択します。

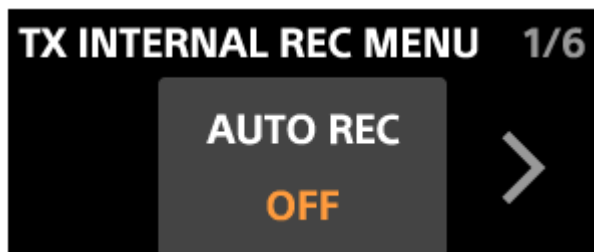
お使いのカメラの対応／非対応については、以下のサイトでご確認ください。

- ECM-W5
<https://www.sony.net/dics/ecmw5/>
- ECM-W5R
<https://www.sony.net/dics/ecmw5r/>

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

AUTO REC

マイクロホン内蔵RECメニューの「AUTO REC」について説明します。



「ON」に設定すると、マイクロホンの電源が入ると同時に、自動的にマイクロホンの内蔵メモリーへの録音が始まります。

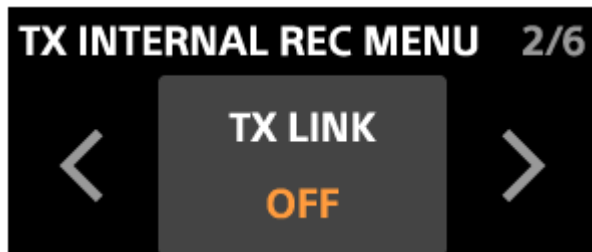
関連項目

- [マイクロホンの内蔵メモリーに録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

TX LINK

マイクロホン内蔵RECメニューの[TX LINK]について説明します。



〔ON〕に設定すると、複数のマイクロホンで同時に録音を開始することができます。複数のマイクロホンをレシーバーに接続しているときに、1台のマイクロホンのREC（録音）ボタンを押す、または入力マイク設定画面から録音開始することで、接続しているすべてのマイクロホンで録音を開始します。

関連項目

- [入力マイク設定画面](#)
- [マイクロホンの内蔵メモリーに録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

REC AUDIO SET.

マイクロホン内蔵RECメニューの「REC AUDIO SET.」について説明します。



マイクロホンの内蔵メモリーに録音するときの記録方式を以下から選択します。

- 32bit float 48kHz
- 24bit int 48kHz
- 24bit int 96kHz

ご注意

- レシーバーに接続したカメラが「24 bit/96 kHz」の記録方式に対応していない場合、「24bit int 96kHz」は選択できません。
「24bit int 96kHz」でマイクロホンの内蔵メモリーに録音したい場合は、記録方式を「24 bit/96 kHz」に設定したカメラをレシーバーに接続し、レシーバーで「REC AUDIO SET.」を「24bit int 96kHz」に設定してください。「REC AUDIO SET.」の設定はカメラ側の設定に合わせて自動的に変更されません。
レシーバーをカメラから取り外したあと、レシーバーとマイクロホンの電源が切れると、「REC AUDIO SET.」の設定は自動的に「32bit float 48kHz」（初期設定）に戻ります。再度「24bit int 96kHz」で録音する場合は、記録方式を「24 bit/96 kHz」に設定したカメラをレシーバーに接続して「REC AUDIO SET.」を「24bit int 96kHz」に設定し直してください。
- レシーバーで「MODE SELECT」を「4TX」または「TWS MIC」に設定しているときは、「24bit int 96kHz」を選択できません。

関連項目

- [マイクロホンの内蔵メモリーに録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

REC LC/NR FILTER

マイクロホン内蔵RECメニューの「REC LC/NR FILTER」について説明します。



マイクロホンの内蔵メモリーに録音するときの、LC（ローカット）フィルター／NR（ノイズリダクション）の有効／無効を設定します。

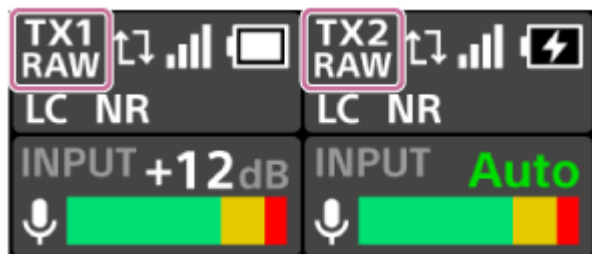
- **SYNC**

入カマイク設定画面のLCフィルター/NR設定が、内蔵メモリーへの録音時にもそのまま反映されます。

- **RAW**

入カマイク設定画面でLCフィルター/NRをオンに設定していても、マイクロホンの内蔵メモリーに録音される音声では常にLCフィルター/NRが無効になります。レシーバーからはLCフィルター/NRを適用した音声を出しつつ、マイクロホンの内蔵メモリーには元の音声のまま録音することができます。

「RAW」に設定すると、マイクステータス画面では、マイクロホンの名前の下に「RAW」が表示されます。



関連項目

- [入カマイク設定画面](#)
- [マイクロホンの内蔵メモリーに録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

OVERWRITE REC

マイクロホン内蔵RECメニューの [OVERWRITE REC] について説明します。

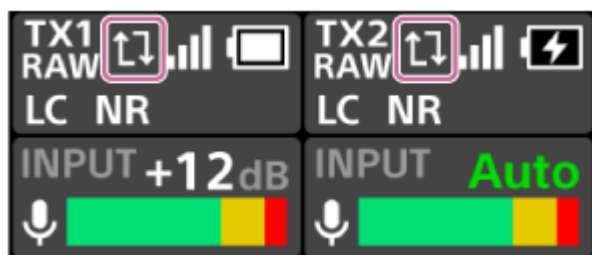


● ON

マイクロホンの内蔵メモリーの容量がいっぱいになると、古い録音データから順に新しい録音データが自動的に上書きされます。

古いデータはこまめにパソコンなどにバックアップを取ることをおすすめします。

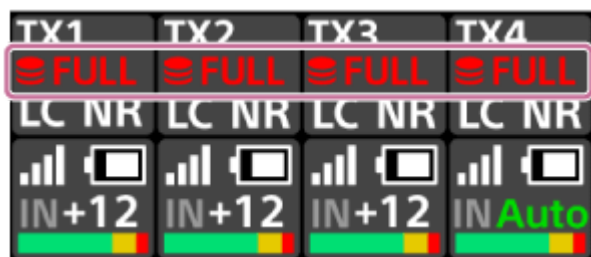
[ON] に設定すると、マイクステータス画面に矢印が表示されます。



● OFF

マイクロホンの内蔵メモリーの容量がいっぱいになると、録音を停止します。

マイクステータス画面では、内蔵メモリーの容量がいっぱいになったマイクロホンの名前の下に [FULL] が表示されます。



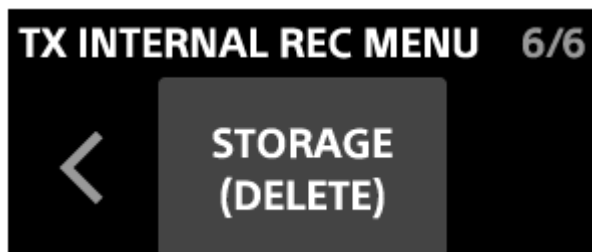
関連項目

- [マイクロホンの内蔵メモリーに録音する](#)

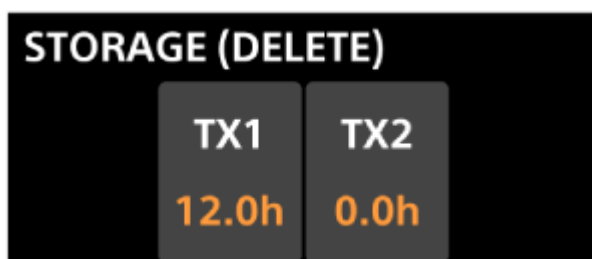
ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

STORAGE (DELETE)

マイクロホン内蔵RECメニューの「STORAGE (DELETE)」について説明します。



マイクロホンの内蔵メモリーで録音可能な残り時間を確認したり、録音データを削除したりします。



録音データを削除したいマイクロホンを選んで、「ALL DELETE」を選択して決定すると、内蔵メモリーにあるすべての録音データが削除されます。

関連項目

- [マイクロホンの内蔵メモリーに録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

MONITOR SET.

ヘッドホンメニューの [MONITOR SET.] について説明します。



システムメニューの [MODE SELECT] で、[2TX] に設定しているときに表示されます。
ヘッドホンでモニターする音声を選択します。

- **CH1 / CH2**

CH1とCH2に出力先を設定しているマイクロホンの音声をモニターします。

- **CAM HP**

カメラのヘッドホン出力の音声をモニターします。

ご注意

- [CH1 / CH2] に設定しているときに、レシーバーのオーディオ入力端子とカメラのヘッドホン出力端子を接続すると、ヘッドホンのモニター音声にノイズが入る場合があります。カメラの音声をモニターする際は、必ず [CAM HP] に設定してください。
- [CAM HP] に設定している場合、レシーバーのオーディオ入力端子とカメラのヘッドホン出力端子を接続すると、カメラからレシーバーへの電源供給が止まりますが、故障ではありません。
- ヘッドホンメニューの [MONITOR SET.] を [CAM HP] に設定していて、レシーバーのオーディオ入力端子とカメラのヘッドホン出力端子を接続しているときは、[POWER LINK] の [CAM-RX] を [ON] にしてもレシーバーの電源オン／オフがカメラと連動しません。手動でレシーバーの電源をオン／オフしてください。

関連項目

- [ヘッドホンで音声をモニターする](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

BINAURAL

ヘッドホンメニューの「BINAURAL」について説明します。



システムメニューの「MODE SELECT」で、「TWS MIC」に設定しているときに表示されます。
バイノーラル録音対応のヘッドホンをお使いの場合のみ、「ON」または「OFF」を設定できます。「ON」に設定するとバイノーラル録音になります。

ヒント

バイノーラル録音とは、人間が実際に音を聞くのと同じ条件で録音する方法です。耳の鼓膜に近い位置のマイクで録音した音をヘッドホンで再生することで、臨場感の高い立体的な音声を聞くことができます。

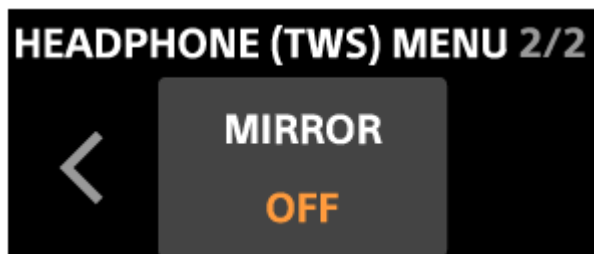
関連項目

- [ヘッドホンをマイクとして使用しカメラで録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

MIRROR

ヘッドホンメニューの[MIRROR]について説明します。



システムメニューの[MODE SELECT]で、[TWS MIC]に設定しているときに表示されます。
ステレオマイクヘッドホンと接続しているときに[ON]または[OFF]を設定できます。[ON]に設定すると、ヘッドホンの左チャンネルと右チャンネル(L/R)を反転させて録音することができます。

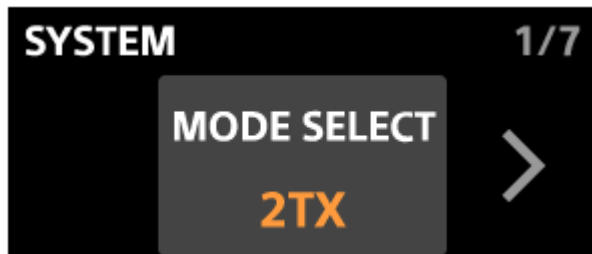
関連項目

- [ヘッドホンをマイクとして使用しカメラで録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

MODE SELECT

システムメニューの [MODE SELECT] について説明します。



モードを以下から選択します。

- **2TX**
2台のマイクロホンを使って録音します。
- **4TX**
4台のマイクロホンを使って録音します。
- **TWS MIC**
ヘッドホンを接続して録音します。

ご注意

- モードを切り替えると、レシーバーとマイクロホンの接続が一時的に解除されます。自動的に再接続されますが、レシーバーに接続したカメラなどの機器で録音中にモードを切り替えると、正常に録音を継続できない場合があります。

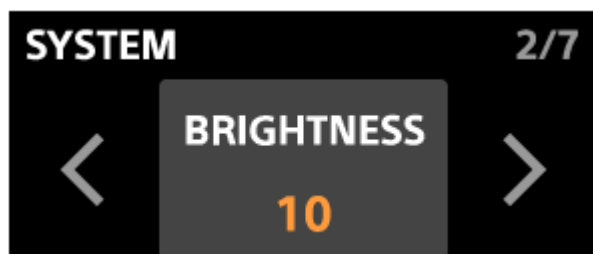
関連項目

- [2台のマイクロホンを使ってカメラで録音する](#)
- [4台のマイクロホンを使ってカメラで録音する](#)
- [ヘッドホンをマイクとして使用しカメラで録音する](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

BRIGHTNESS

システムメニューの [BRIGHTNESS] について説明します。

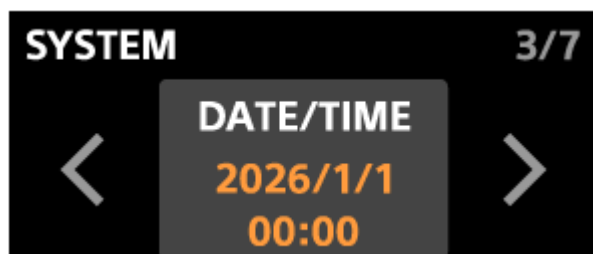


レシーバーのモニターの画面表示の明るさを調整します。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

DATE/TIME

システムメニューの [DATE/TIME] について説明します。



日付と時刻を設定します。

日付の表示形式は、以下から選択できます。

- **YYYY/MM/DD**
年／月／日の順に表示されます。
- **MM/DD/YYYY**
月／日／年の順に表示されます。
- **DD/MM/YYYY**
日／月／年の順に表示されます。

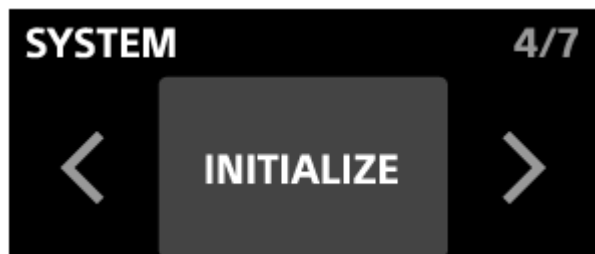
関連項目

- [日付と時刻を設定する](#)
- [TIMECODE SET.](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

INITIALIZE

システムメニューの [INITIALIZE] について説明します。



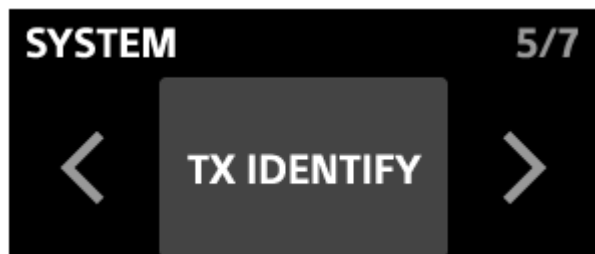
レシーバーの設定を工場出荷時の設定に初期化します。

レシーバーを初期化しても、TX1、TX2として接続した2台のマイクロホンとのペアリング情報は削除されません。
ペアリング情報を削除したい場合は、[RX] の [PAIRING] でマイクロホンを選択し、[DELETE] を選択して削除してください。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

TX IDENTIFY

システムメニューの [TX IDENTIFY] について説明します。



システムメニューの [MODE SELECT] で、[2TX] または [4TX] に設定しているときに表示されます。

レシーバーに接続しているマイクロホンを表示します。

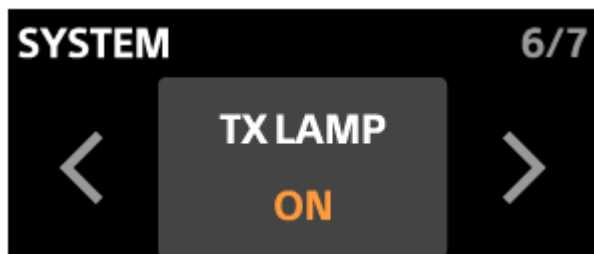
2台接続している場合はTX1とTX2、4台接続している場合はTX1～TX4が表示されます。

マイクロホンの名前を選択すると、選択したマイクロホンのすべてのランプが3秒間点滅し、接続しているマイクロホンがどれか判別することができます。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

TX LAMP

システムメニューの「TX LAMP」について説明します。



マイクロホンのランプ表示について設定します。

- **ON**

機器や通信の状態によって、マイクロホンのランプが点灯または点滅します。
ランプ表示について詳しくは、「[ランプ表示](#)」をご覧ください。

- **OFF**

マイクロホンのランプは点灯または点滅しません。
ただし、以下の場合にはマイクロホンのランプが点灯または点滅します。

- マイクロホンがペアリングモード中：LINKランプが点滅します。
- マイクロホンを充電中：Powerランプが点灯します。
- マイクロホンの電源を入れたあと：Powerランプが3秒間だけ点灯します。
- マイクロホンのON/OFF（電源）ボタンを短く2回押したとき：LINKランプが点灯または点滅します。
- システムメニューの「TX IDENTIFY」でマイクロホンの名前を選択したとき：選択したマイクロホンのすべてのランプが3秒間点滅します。
詳しくは、「[TX IDENTIFY](#)」をご覧ください。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

VERSION

システムメニューの [VERSION] について説明します。



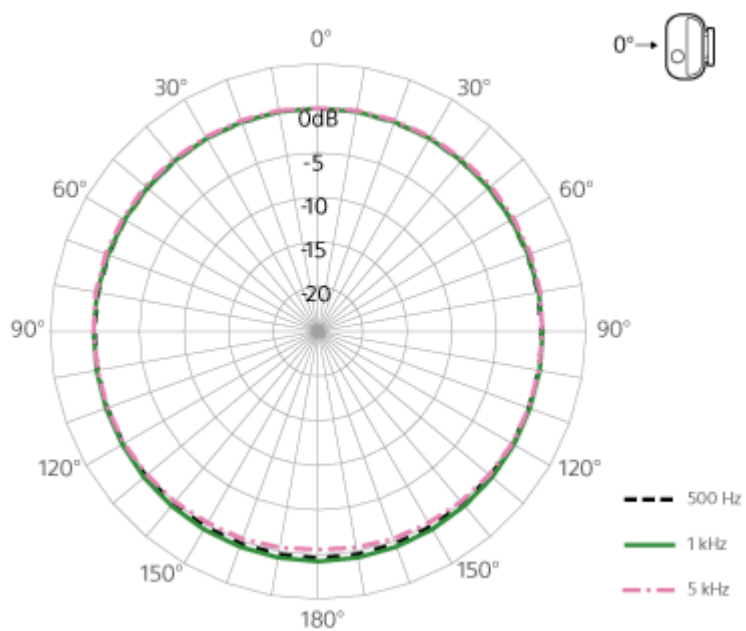
お使いのレシーバーやマイクロホンのバージョン情報を表示します。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

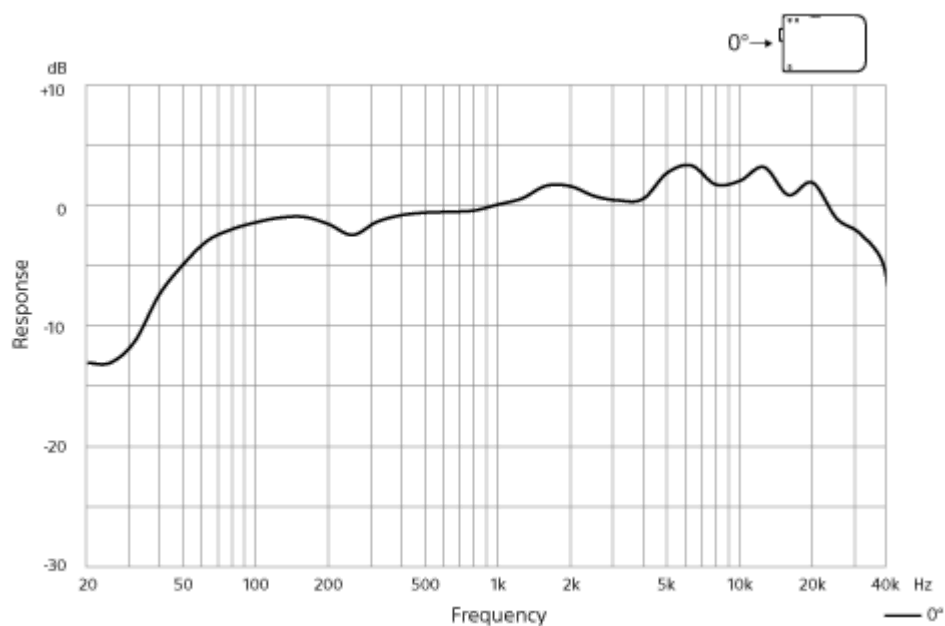
指向特性と周波数特性について

モノラル 全指向性

● 指向特性



● 周波数特性



ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

Bluetooth®無線通信技術について

- Bluetooth無線通信技術とは、パソコンとその周辺機器、スマートフォンなど、さまざまな機器同士を無線で接続し、相互の通信を可能にする技術の名称です。

ご注意

- 本機は以下の状況において通信感度に影響を受けることがあります。
 - レシーバーとマイクロホンの間やヘッドホンとレシーバーの間、スマートフォンとマイクロホンの間に人体や金属、壁または反射面などの障害物がある場合
 - 無線LANが構築されている場所、複数のBluetooth機器を近距離で使用している場所、電子レンジを使用中の周辺、その他電磁波が発生している場所など
- マイクロホンをカメラに近づけすぎると、電波の影響で、録音される音声にノイズが入る場合があります。その場合は、マイクロホンをカメラから離してご使用ください。
- レシーバーとマイクロホンの通信状態は、以下で確認できます。
 - レシーバー：マイクステータス画面の通信強度表示
 - マイクロホン：LINKランプ

周囲の無線状況や、障害物が多い場合など、通信状態が悪化して音声途絶えたり、ノイズが発生したりすることがあります。その場合は、マイクロホンのLINKランプが点滅したり、レシーバーの画面で通信強度が低く表示されたりします。距離が適切か、障害物がないかなど確認し、通信強度が安定している状態でご使用ください。

関連項目

- [マイクステータス画面](#)
- [ランプ表示](#)

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

使用上のご注意

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

このWeb取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。よくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

- 本書（充電方法、動作可能な最低／最高温度に関する情報を含む）をお読みください。
あわせて、お使いのカメラなど本機を接続する機器の取扱説明書もご確認ください。
- 本製品を他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障や破損につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- 火災、感電の原因となることがありますので以下にご注意ください。
 - － 分解や改造をしない
 - － めれた手で使用しない
 - － 内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない
 - － 水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない
 - － 本機をショートさせたり、金属や導電性の物体でショートさせる可能性のある容器に収納したりしない
- 破損や不具合の原因となる場合がありますので以下にご注意ください。
 - － 本機は精密機器のため、落したり、たたいたり、強い衝撃を与えない
 - － 液体がかからないように丁寧に扱う
 - － 本機を押しつぶす、曲げる、穴をあける、粉碎するなどの機械的衝撃を与えない
 - － 端子部を直接手で触らない
 - － 高温多湿の場所での使用、保存を避ける
- 内部点検や修理は相談窓口にご依頼ください。
- 本機は防じん、防滴性に配慮して設計されていますが、防水性能は備えていません。雨中での使用時は、本機に雨がかからないようにしてください。

バッテリー／充電についてのご注意

- 本機は充電時に熱を発生します。必ず換気の良い場所で充電を行ってください。本機を枕や毛布の下、燃えやすいものの上に置いて充電しないでください。
- 発熱・火災・爆発の恐れがありますので、以下の点にご注意ください。
※リチウムイオン電池を内蔵しています。
 - － 製品を火の中や近くに置いたり、電子レンジに入れない。
 - － 暑い日には車の中に放置しない。
 - － サウナ風呂などの高温多湿な場所で保管、使用しない。
 - － 分解や改造、切断、押しつぶしたり穴を開けたりしない。
 - － 高所からの落下など、強い衝撃を与えない。
 - － 製品を60℃を超える高温にさらさない。
 - － 焼却したり、火の中に捨てたりしない。
 - － めらさない。
 - － -20℃以下の過度の低温や11.6 kPa以下の極端な低圧にさらさない。

製品を適切に廃棄する。

取扱説明書で指定された充電方法で充電する。

マグネットについてのご注意

- 本製品（付属品を含む）は磁石を使用しているため、ペースメーカー、水頭症治療用圧可変式シャントなどの医療機器に影響を与える恐れがあります。本製品をこれらの医療機器をご使用の方に近づけないでください。これらの医療機器を使用されている場合、本製品のご使用前に担当医師にご相談ください。
- 本製品（付属品を含む）は磁石を使用しているため、金属片（カッターの刃やホチキスの針など）が付着していないことを確認してください。
付着物により、けがなどの原因となります。
- 本製品（付属品を含む）を磁気カードに近づけないでください。
本製品（付属品を含む）は磁石を使用しています。磁気を利用したカード類を近づけると、カードの磁気に変化して使えなくなることがあります。
- ECM-W5、ECM-W5Tに同梱のマグネットは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。飲み込めないように設計に配慮していますが、万が一飲み込んだり、体内に入ったりしたと思われる場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
- セーターやダウンジャケットなど、厚みのある衣類を着ている場合、マグネットで取り付けたマイクロホンが落下する可能性があります。マイクロホンがしっかり固定されていることを確認してください。また、マイクロホンの落下による事故を防ぐため、激しい動きを行う場合は注意して本機を使用してください。

運転中／歩行中のご注意

- 運転中は使用しないでください。自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンなどを使用したり、細かい操作をすることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分にご注意ください。

本機の取り扱いについてのご注意

- カメラの内蔵フラッシュをお使いの場合は、レシーバーを取り外してください。
- レシーバーをカメラやその他の機器に接続した状態で、レシーバー部分を持って接続機器を持ち上げないでください。接続部が破損したり、接続機器が落下したりする恐れがあります。
- レシーバーを持ち歩くときや使用しないときは、端子部の破損を防ぐため、カメラから取り外した後に充電ケースに入れるか、付属の端子保護部品を取り付けてポーチに入れてください。
- 本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能の使用を中止してください。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となる恐れがあります。

接続時のご注意

- 無線機器が近くにある場合は、その無線機器からレシーバー／マイクロホンを十分に離してご使用ください。

録音についてのご注意

- 録音中にレシーバー、マイクロホンまたは市販のØ3.5 mmプラグ付きTRSオーディオケーブルに触れると、ノイズとして録音される場合があります。
- 本機をアナログ接続した場合、お使いいただく環境によってはノイズが録音される場合があります。
- マイクロホンにほこりや水滴などが付着していると、正しく録音されないことがあります。取り除いてから使用してください。

ヘッドホン／マイクロホンについてのご注意

- 温度の低い場所で本機をご使用になる場合は、常温時（25℃）に比べて電池の性能が低下しますので、使用できる時間が短くなります。
- 使用中、ヘッドホンをマイクロホンに近づけると「ピー」という音が発生することがあります（ハウリング現象）。その場合は、ヘッドホンとマイクロホンの距離をできるだけ離すか、ヘッドホンの音量を下げてください。

ウインドスクリーンについてのご注意

- 付属のウインドスクリーンは、素材の特性上、毛が抜けたり乱れたりします。また、摩擦や汗、水濡れなどにより、色落ちや他の製品への色移りの可能性があります。
- レンズ交換の際、レンズおよびカメラボディにウインドスクリーンの繊維が付着していないか確認してください。付着している場合は、ブロアーなどで繊維を取り除いてからレンズ交換をしてください。

本機を廃棄するときの注意

- 機器に内蔵されている充電式電池はリサイクルできます。
この充電式電池の取り外しはお客様ご自身では行わず、ソニーの相談窓口にご相談ください。

5-079-407-01(1) Copyright 2026 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

主な仕様

通信仕様

通信方式	Bluetooth標準規格 Ver. 6.1
通信距離*	最大 500 m

* マイクロホンを立てて、レシーバーを真っ直ぐに向かい合わせたときの目安となる距離です。金属、人体などの障害物や反射面の有無など周囲の状況や電波状況により変化します。

エコ／省エネルギー

消費電力（オフモード）	非該当
消費電力（スタンバイモード／低電力モード）	0.2 W
消費電力（ネットワークスタンバイモード）	レシーバー：0.3 W ^{*1} マイクロホン：0.2 W ^{*2}
省電力モード有効	20分以内
ネットワークスタンバイモードが有効になるまでの時間	20分以内

*1 マルチインターフェースシュー、マイク出力端子、すべての端子接続時およびネットワーク接続時

*2 Bluetooth機能、すべての端子接続時およびネットワーク接続時

レシーバー

マイク出力端子	Ø3.5 mmミニジャック（ステレオ）
オーディオ入力端子	Ø3.5 mmミニジャック（ステレオ）
USB端子	USB Type-C
電源	内蔵リチウムイオンバッテリー（約3.7 V）／マルチインターフェースシューから供給
定格電圧	5 V 
消費電力（約）	0.22 W
連続使用時間（約）	7時間（内蔵バッテリー満充電時） ^{*1}
充電時間（約）	55分 ^{*2}
外形寸法（約）	53.5 mm × 17.8 mm × 37.5 mm（幅／高さ／奥行き）
質量（約）	35 g

*1 動作条件は以下のとおりです。

- 2台のマイクロホンとレシーバーを接続しているとき

- レシーバーのオーディオ入力端子に外部マイクを接続していないとき

- 出力ゲイン設定：0

*2 内蔵バッテリーの残量がない状態から、出力が5 V  3 AのUSB ACアダプターを使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

マイクロホン

周波数特性	20 Hz～20 000 Hz（48 kHzサンプリング時）／20 Hz～40 000 Hz（96 kHzサンプリング時）
指向特性	モノラル 全指向性
正面感度*1	-40 dBFS（0.1 Pa、1 kHz）
固有雑音*1 *2	21 dB SPL以下（0 dB=2×10 ⁻⁵ Pa）
風雑音*1 *3	● 47 dB SPL以下（ウインドスクリーン未装着時） ● 30 dB SPL以下（ウインドスクリーン装着時）
最大入力音圧レベル	124 dB SPL *1 *4
ダイナミックレンジ*2	103 dB以上
外部マイク入力端子	Ø3.5 mmミニジャック（モノラル）
USB端子	USB Type-C
電源	内蔵リチウムイオンバッテリー（約3.7 V）
定格電圧	5 V 
消費電力（約）	0.32 W*5
連続使用時間（約）	11時間（内蔵バッテリー満充電時）*5
充電時間（約）	55分*6
外形寸法（約）	31.0 mm × 47.0 mm × 22.3 mm（幅／高さ／奥行き）
質量（約）	27.1 g

*1 入力ゲイン設定：AUTO、出力ゲイン設定：0 dB、NR（ノイズリダクション）設定：オフ

*2 MISHOE SET：DIGITAL

*3 マイクロホンの各方向に風速2 m/秒の気流を当てたとき、マイクロホンに発生する雑音出力の平均値を等価入力音圧に換算した値。（0 dB=2×10⁻⁵ Pa）

*4 マイクロホンの出力信号が1 kHzで1%の波形ひずみを生じる入力レベルの等価入力音圧換算値（0 dB=2×10⁻⁵ Pa）

*5 動作条件は以下のとおりです。

- マイクロホンとレシーバーを接続しているとき

- オーディオ入力端子に外部マイクを接続していないとき

- 入力ゲイン設定：0

- LC（ローカット）フィルター／NR（ノイズリダクション）設定：オフ

- [2TX] モードに設定しているレシーバーに対して、干渉のない近距離での音声伝送中のとき

*6 内蔵バッテリーの残量がない状態から、出力が5 V  3 AのUSB ACアダプターを使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

充電ケース

USB端子	USB Type-C
-------	------------

定格電圧	5 V 
消費電力（約）	7.6 W
充電時間（約）	150分*
外形寸法（約）	77.5 mm × 51.0 mm × 94.5 mm（幅／高さ／奥行き）
質量（約）	174 g

* 内蔵バッテリーの残量がない状態から、出力が5 V  3 AのUSB ACアダプターを使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

その他

動作温度	0℃～40℃
保存温度	－10℃～＋55℃

推奨のUSB ACアダプター

入力	100～240 V  、50/60 Hz
出力	5 V  、3 A以上

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ワイヤレスマイクホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

商標について

- Bluetooth[®]ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニーグループ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Multi Interface Shoe（マルチインターフェースシュー）はソニーグループ株式会社の商標です。
- USB Type-C[™]およびUSB-C[™]はUSB Implementers Forumの商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には[™]、[®]マークは明記していない場合があります。

ワイヤレスマイクロホン／ワイヤレスレシーバー／ワイヤレストランスミッター
ECM-W5 / ECM-W5R / ECM-W5T

「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」とカメラに表示されたら

以下の順番で確認してください。

1 本機に対応しているカメラをお使いですか？

本機に接続可能なカメラについては、以下のサイトでご確認ください。

- ECM-W5
<https://www.sony.net/dics/ecmw5/>
- ECM-W5R
<https://www.sony.net/dics/ecmw5r/>

ご注意

- 上記のサイトに記載がないカメラの場合は、本機と組み合わせてお使いいただくことはできません。

2 デジタルオーディオインターフェース非対応のカメラを本機と使う場合は、レシーバーのコントロールメニュー画面で、[MISHOE SET.] の設定を [ANALOG] に切り替えてください。

設定について詳しくは、「[MISHOE SET.](#)」をご覧ください。

3 レシーバーやカメラの接点がほこりなどで汚れている場合は、認識されないことがあります。綿棒や乾いた柔らかい布（クリーニングクロスなど）で汚れをふき取ってください。水や薬品などは使わないでください。

ご注意

- レシーバーメニューの [POWER LINK] で [CAM-RX] を [ON] に設定している場合、レシーバーとデジタルオーディオインターフェース非対応のカメラを接続していると、カメラの電源オンに連動してレシーバーの電源もオンになるときに、数秒間カメラ側に警告が表示されますが、故障ではありません。レシーバーが起動完了するとカメラ側の警告表示も自動で消え、問題なく使用することができます。

関連項目

- [コントロールメニュー画面](#)
- [POWER LINK](#)